



TAK  
LISTED  
NYSE TSE: 4502

# 新たな時代の幕開け： 変革から成長加速へ

2025年度第4四半期決算

2026年5月13日

# 重要な注意事項



本注意事項において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションに関して武田薬品工業株式会社 (以下、「**武田薬品**」) によって説明又は配布された本書類並びに一切の口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション (それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます) は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法の登録又は登録免除の要件に基づいて行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、(投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく) 情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で (受領者に対して提供される追加情報と共に) 提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性があります。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使用されていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

本プレゼンテーションに記載されている製品名は、武田薬品又は各所有者の商標又は登録商標です。

## 将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む武田薬品の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「確実にする (ensures)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「かもしれない (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」、「予測する (forecasts)」、「見通し (outlook)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の結果は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の結果とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件並びに国際貿易関係に関する状況を含む武田薬品のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、薬価、税金、関税その他の貿易関連規則を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品及び既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機、温室効果ガス排出量の削減又はその他環境目標の達成を可能にする武田薬品の環境・サステナビリティに対する取り組みの成功、人工知能 (AI) を含むデジタル技術の統合をはじめとする、業務効率化、生産性向上又はコスト削減に向けた武田薬品の取り組み、その他の事業再編に向けた取り組みが、期待されるベネフィットに寄与する程度、武田薬品のウェブサイト (<https://www.takeda.com/jp/investors/sec-filings-and-security-reports/>) 又は [www.sec.gov](https://www.sec.gov) において閲覧可能な米国証券取引委員会に提出した Form 20-F による最新の年次報告書並びに武田薬品の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は武田薬品が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果及び情報は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

## 財務情報及び国際会計基準に準拠しない一部の財務指標

武田薬品の財務諸表は、国際会計基準 (以下、「IFRS」) に基づいて作成されております。本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、Core売上収益、Core営業利益、Core当期利益、Core EPS (親会社の所有者帰属分)、CER (Constant Exchange Rate : 恒常為替レート) ベースの増減、純有利子負債、調整後純有利子負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリー・キャッシュ・フロー、調整後フリー・キャッシュ・フローのように、IFRS に準拠しない財務指標が含まれています。当社経営陣は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本報告書に含まれるIFRSに準拠しない財務指標に基づいて行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、最も良く対応するIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュ・フロー項目を除外してあります。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません (IFRSに準拠する財務指標を「財務ベース」指標として参照している場合があります)。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、その定義と、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との調整表をご参照くださいますようお願い申し上げます。

## 便宜的な米ドル換算

本プレゼンテーションにおける一部日本円表示の米ドルへの換算は、特に断りのない限り、読者に対して便宜的に表示するためのものであり、ニューヨーク連邦準備銀行によって認証されている2026年3月31日時点の換算レート「Noon Buying Rate : 1米ドル=159.08円」で換算しています。便宜的な米ドル換算に用いられている換算レートおよび方法は、当社の連結財務諸表の作成で用いられた国際会計基準 (IFRS) に準拠した換算レートおよび方法とは異なります。また、これらの米ドル換算は、円貨額が上記もしくはそれ以外の換算レートを用いて米ドルへ転換できるということを示すものではありません。

## 臨床試験に関する用語

本プレゼンテーションにおける臨床試験に関して、(1)「ブルー・オブ・コンセプト (POC)」とは、ピボタル試験または後期開発プログラムを開始するのに十分な臨床データが得られたことを意味します。(2) 臨床試験データの「読み出し」とは、以下いずれかの場合を指します：(a) 該当する臨床データの取得、(b) 取得した臨床データに対する必要な分析およびレビューの完了、(c) (要請される場合または通常の慣例や実務慣行に基づく場合) 取得したデータについて該当する規制当局との協議。読み出しが複数のPOC試験に関連する適応症クラス (例：固形がん) を指す場合は、以下のいずれか早い方のタイミング：(x) 当該適応症クラス初めてのPOC達成、または (y) 当該適応症クラスにおける全てのPOC試験の結果を取得

## 医療情報

本プレゼンテーションには、製品に関する情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

# AGENDA



## オープニングリマークス

クリストフ・ウェバー 代表取締役社長 CEO



## ビジネスハイライト

ジュリー・キム 次期CEO



## 財務ハイライト

古田 未来乃 チーフ フィナンシャル オフィサー



## パイプラインアップデート

アンディー・プランプ リサーチ&デベロップメント プレジデント



## クロージングリマークス

ジュリー・キム 次期CEO

Q&A

質疑応答



# AGENDA



## オープニングリマークス

クリストフ・ウェバー 代表取締役社長 CEO

## ビジネスハイライト

ジュリー・キム 次期CEO

## 財務ハイライト

古田 未来乃 チーフ フィナンシャル オフィサー

## パイプラインアップデート

アンディー・プランプ リサーチ&デベロップメント プレジデント

## クロージングリマークス

ジュリー・キム 次期CEO

## 質疑応答



# 2025年度は堅調な業績を示す、パイプラインの進捗も良好 新製品の上市を予定する重要な時期に向けた基盤を構築



## 2025年度は堅調な業績

### Core売上収益

45,057億円  
(283億米ドル)

△2.6% (CERベース)

### Core営業利益

11,725億円  
(74億米ドル)

△0.9% (CERベース)

### Core EPS

517円  
(3.25米ドル)

+3.1% (CERベース)

## 後期開発パイプラインの進捗

### 良好なピボタル試験データの読み出し

Oveporexton (ナルコレプシータイプ1)

Rusfertide (真性多血症)

Zasocitinib (乾癬)

TAK-881 (原発性免疫不全症候群)

### 臨床第3相試験 開始

Elritercept (骨髄異形成症候群に伴う貧血 (2次治療))

Mezagitamab (IgA腎症)

### 新たな戦略的パートナーシップ

TAK-928およびTAK-921

Innovent Biologics社との提携

## 2026年度の 優先事項

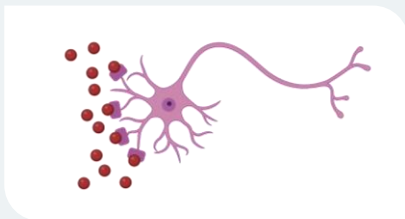
- Oveporextonおよびrusfertideの米国における上市の成功とzasocitinibの新薬承認申請
- TAK-360、TAK-928、TAK-921および炎症性腸疾患 (IBD) に対するzasocitinibの重要なデータの読み出しにより、次のウェーブとなるパイプラインを推進
- 新たな組織能力の創出と効率化を実現するトランスフォーメーション・プログラムを推進

今後12カ月で3つの革新的な新薬を上市予定。当社は新たな成長局面へ



## Oveporexton

ナルコレプシータイプ1



ナルコレプシータイプ1 (NT1) の幅広い症状に対して革新的な有効性を示し、標準治療を再定義しうるオレキシン作動薬

**上市予定**  
2026年 (下期)



## Rusfertide

真性多血症



迅速、持続的かつ長期にわたりヘマトクリットをコントロールし、重大なアンメット・ニーズに対応するヘプシジンミメティックス (類似薬)

**上市予定**  
2026年 (下期)



## Zasocitinib

乾癬



高い選択性を有する次世代の経口TYK2阻害剤  
利便性を備えた1日1回の内服薬で  
迅速かつ持続的に皮膚病変が改善

**上市予定**  
2027年 (上期)

● ブレークスルーセラピー指定 ● ファストトラック指定 ● 希少疾病用医薬品 (オーファンドラッグ) 指定 ● 先駆的医薬品指定 (日本)、ブレークスルーセラピー指定 (中国)

# 直近に控える3つの上市は出発点であり

## 後期開発パイプラインには、さらに5つの高い革新性を有する新規候補物質



### Oveporexton

(TAK-861)

オレキシン2受容体作動薬  
ナルコレプシータイプ1 ✓

+ 追加のオレキシン2受容体作動薬

### Rusfertide

(TAK-121)

ヘプシジンミメティックス (類似薬)  
真性多血症 ✓

### Zasocitinib

(TAK-279)

TYK2阻害剤  
乾癬 ✓  
乾癬性関節炎

+追加適応症

### Mezagitamab

(TAK-079)

抗CD38抗体  
IgA腎症  
免疫性血小板減少症 (ITP)

+追加適応症

### Elritercept

(TAK-226)

アクチビンA/B リガンドトラップ  
MDSに伴う貧血 (2次治療)

+追加適応症

### Fazirsiran

(TAK-999)

肝臓標的siRNA  
AATD肝疾患

### TAK-928

(旧開発コード : IBI363)

$\alpha$ -biased IL-2/PD-1  
IO/化学療法難治性  
sqNSCLC (2次治療)

+追加適応症

### TAK-921

(旧開発コード : IBI343)

CLDN18.2 ADC  
胃がん (3次治療以降)

+追加適応症

本表は進行中の臨床第3相試験における適応症を示す。複数の候補物質では、さらなる重要なライフ・サイクル・マネジメントの機会が存在

● 少なくとも1つの適応症においてブレイクスルーセラピー指定

● 少なくとも1つの適応症においてファストトラック指定

● 少なくとも1つの適応症において希少疾病用医薬品 (オーファンドラッグ) 指定

● 少なくとも1つの適応症において先駆的医薬品指定 (日本)、ブレイクスルーセラピー指定 (中国)

✓ 臨床第3相試験において  
ポジティブなデータ取得済み

# 新たな組織体制およびエグゼクティブ・リーダーシップチーム スピード、競争力、将来の成長を加速



CEO



**クリストフ・ウェバー<sup>1</sup>**  
代表取締役 社長CEO



**ジュリー・キム<sup>2</sup>**  
次期CEO

ビジネスユニット



**ロンダ・パチエコ**  
U.S.ビジネスユニット  
プレジデント



**ジャイルズ・  
プラットフォード**  
インターナショナル  
ビジネスユニット  
プレジデント



**宮柱 明日香**  
ジャパンファーマ  
ビジネスユニット  
プレジデント



**テレサ・ビテッティ**  
グローバルオンコロジー  
ビジネスユニット  
プレジデント



**ラミー・リアド**  
プラスマ デライブド  
セラピーズビジネスユニット  
プレジデント

ビジネスファンクション



**アンドリュー・プランク**  
取締役、リサーチ &  
デベロップメント  
プレジデント



**マルチェロ・アゴスティ**  
インテリム ヘッド  
ストラテジー&ポートフォリオ  
デベロップメント



**オーニー・ファラジャラ**  
チーフ メディカル  
オフィサー



**エリン・シャノン**  
グローバル サプライ &  
クオリティ プレジデント



**ガブリエレ・リッチ**  
チーフ データ&テクノロジー  
オフィサー

ビジネスパートナー



**古田 未来乃**  
取締役、チーフ  
フィナンシャル オフィサー



**ニコラ・グリーンウェイ**  
チーフHRオフィサー



**ナタリー・ファーニー**  
グローバル  
ジェネラルカウンセル



**ローレン・デュプレイ**  
チーフ トランスフォーメー  
ション オフィサー



**ジェニファー・スモーター**  
チーフ・コミュニケーションズ  
&ガバナンス・オフィサー



**天川 晶子**  
CEO チーフ オブ スタッフ

# 多様性および経験に富んだ取締役候補者 当社の新たな時代に求められる専門性を備える



2026年  
定時株主総会  
に提案する  
取締役候補者

## 3名 社内取締役



新任候補者

ジュリー・キム  
代表取締役 社長CEO



古田 未来乃  
取締役、チーフ  
フィナンシャル オフィサー



アンドリュー・プランプ  
取締役、リサーチ &  
デベロップメント  
プレジデント

議長・委員長およびメンバーは  
独立社外取締役に構成

CB 取締役会議長

監査等委員会メンバー（2026-2027年度）

議長、監査等委員会の委員長、指名委員会および報酬委員会の委員については、6月の定時株主総会后に正式決定する予定です。

## 8名 独立社外取締役



CB

飯島 彰己  
独立社外取締役  
取締役会議長



スティーブン・ギリス  
独立社外取締役



ジョン・マラゴノア  
独立社外取締役



新任候補者

ポール・ストフェルス<sup>1</sup>  
独立社外取締役



津坂 美樹  
独立社外取締役

## 監査等委員会（A&SC）



新任候補者

ブルース・ブルサード  
独立社外取締役



新任候補者

木村 浩一郎  
独立社外取締役



キンバリー・リード  
独立社外取締役

# 新たな時代を創る二つの成長段階：変革から成長加速へ

## Horizon 1：成長に向けた変革 競争力の強化と成長エンジンの構築

- 3つの上市成功を起点に新たな成長ドライバーを確立
- 重要な転換点を経て強固な後期開発パイプラインを推進
- 既存主力製品の収益基盤としての安定性と競争力を確保
- 組織能力の創出と効率化を実現する  
トランスフォーメーション・プログラムを推進

## Horizon 2：成長の加速

長期的な収益性の向上と患者さんへの価値創出

- 初期の上市製品群の規模拡大を推進し売上収益を最大化
- 後期開発パイプラインから次の新製品群を上市
- 研究開発エンジンから新たな治療薬候補を継続的に創出
- 先進技術によりスピード・品質・効率性を向上

Capital Markets Dayを2026年度後半に計画

# AGENDA



## オープニングリマークス

クリストフ・ウェバー 代表取締役社長 CEO

## ビジネスハイライト

ジュリー・キム 次期CEO

## 財務ハイライト

古田 未来乃 チーフ フィナンシャル オフィサー

## パイプラインアップデート

アンディー・プランプ リサーチ&開発 プレジデント

## クロージングリマークス

ジュリー・キム 次期CEO

## 質疑応答



# 2025年度：営業経費の節減がVYVANSEの後発品による減益影響を軽減し堅調な業績



## 2025年度（4-3月）連結業績（サマリー）

(億円、EPSを除く)

	財務ベース			CORE <sup>1</sup>			
	2025年度	2024年度	実勢レートベース増減率 (%)	2025年度	2024年度	実勢レートベース増減率 (%)	CER <sup>2</sup> ベース増減率 (%)
売上収益	45,057	45,816	△1.7%	45,057	45,798	△1.6%	△2.6%
営業利益	4,088	3,426	+19.3%	11,725	11,626	+0.8%	△0.9%
営業利益率	9.1%	7.5%	+1.6pp	26.0%	25.4%	+0.6pp	
当期利益	1,918	1,079	+77.7%	8,141	7,756	+5.0%	+2.9%
EPS	122円	68円	+78.1%	517円	491円	+5.2%	+3.1%
営業活動による キャッシュ・フロー	10,414	10,572	△1.5%				
調整後 フリー・キャッシュ・フロー <sup>3</sup>	6,845	7,690	△11.0%				

1. Core財務指標の定義はA-1ページ、調整表はA-8、A-10ページをご参照下さい。  
 2. Constant Exchange Rate：恒常為替レート。定義はA-1ページをご参照下さい。  
 3. 定義はA-2ページ、調整表はA-12ページをご参照下さい。

# 2025年度：1月公表のマネジメントガイダンスを達成



## 2025年度マネジメントガイダンス CORE増減率（CERベース）







	2025年度 実績	2026年1月公表ガイダンス	(参考) 2025年5月公表ガイダンス
CORE売上収益	△2.6%	一桁台前半%の減少	概ね横ばい
CORE営業利益	△0.9%	一桁台前半%の減少	概ね横ばい
CORE EPS	+3.1%	一桁台前半%の減少	概ね横ばい











- Core売上収益：2026年1月公表ガイダンス通りの水準
- Core営業利益：追加の営業経費節減により2026年1月公表ガイダンスの上限に達する
- Core EPS：想定よりも有利な税務要因により2026年1月公表ガイダンスを上回る

# 2025年度：成長製品・新製品は+4.5%成長（CERベース）



## 6つの主要なビジネスエリアでバランスの取れたポートフォリオ

 <p><b>消化器系疾患</b></p> <p>対売上収益比：31% 対前年比（CERベース）：+3.1%</p>	 <p><b>希少疾患</b></p> <p>対売上収益比：17% 対前年比（CERベース）：△0.3%</p>	 <p><b>血漿分画製剤 （PDT）</b></p> <p>対売上収益比：23% 対前年比（CERベース）：+1.9%</p>	 <p><b>オンコロジー</b></p> <p>対売上収益比：13% 対前年比（CERベース）：+2.0%</p>	 <p><b>ワクチン</b></p> <p>対売上収益比：1% 対前年比（CERベース）：+5.1%</p>	 <p><b>ニューロサイエンス （神経精神疾患）</b></p> <p>対売上収益比：9% 対前年比（CERベース）：△27.2%</p>
---	---	---	---	--	---

 <p>vedolizumab</p> <p>9,580億円 +4.2%</p>	 <p>(lanadelumab-flyo) injection</p> <p>2,239億円 △0.4%</p>	 <p>GAMMAGARD LIQUID (Immune Globulin Intravenous (Human)) 10% HyQvia (Human Normal Immunoglobulin (90% Recombinant Human Hyalomate)) Cuvitru (Immune Globulin Subcutaneous (Human)) 20%</p> <p>7,906億円 +4.1%</p>	 <p>(fruquintinib) capsules</p> <p>551億円 +14.6%</p>	 <p>Dengue Tetravalent Vaccine (Live, Attenuated)</p> <p>408億円 +10.7%</p>	<p><b>成長製品・新製品</b></p> <p>2025年度 売上収益 23,133億円 (145億米ドル)<sup>1</sup></p> <p>売上収益全体の 約51%</p> <p>+4.5%成長 (CERベース)</p>
 <p>(budesonide oral suspension) 2mg</p> <p>88億円 +63.2%</p>	 <p>(maribavir) tablets 200mg</p> <p>469億円 +41.0%</p>	 <p>Flexbumin (Human Albumin) HUMAN ALBUMIN (Human Albumin)</p> <p>1,403億円 △2.1%</p>	 <p>BRIGATINIB</p> <p>369億円 +0.2%</p>		
 <p>ADAMTS13, recombinant-krhn</p> <p>120億円 +65.1%</p>					

絶対値は国際会計基準（IFRS）財務ベースの2025年度業績、成長率は恒常為替レート（Constant Exchange Rate：CER）ベースの対前年比（定義はA-1ページをご参照下さい）。

対売上収益比は2025年度の売上収益。

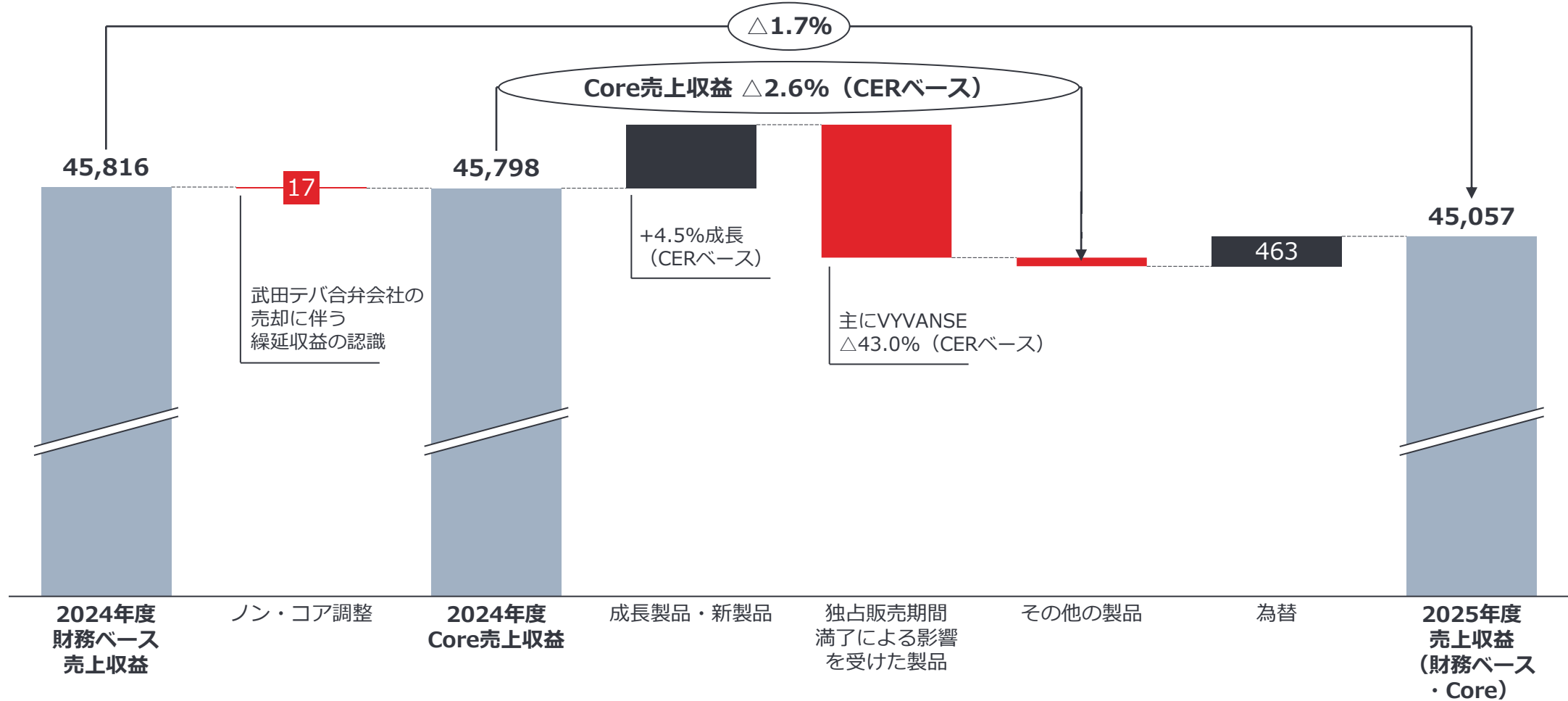
1. 為替レートに関する免責事項は2ページをご参照下さい。

# VYVANSEの独占販売期間満了による大幅な減収影響を 成長製品・新製品の伸びが一部相殺



## 2025年度（4-3月）売上収益（対前年度）

(億円)



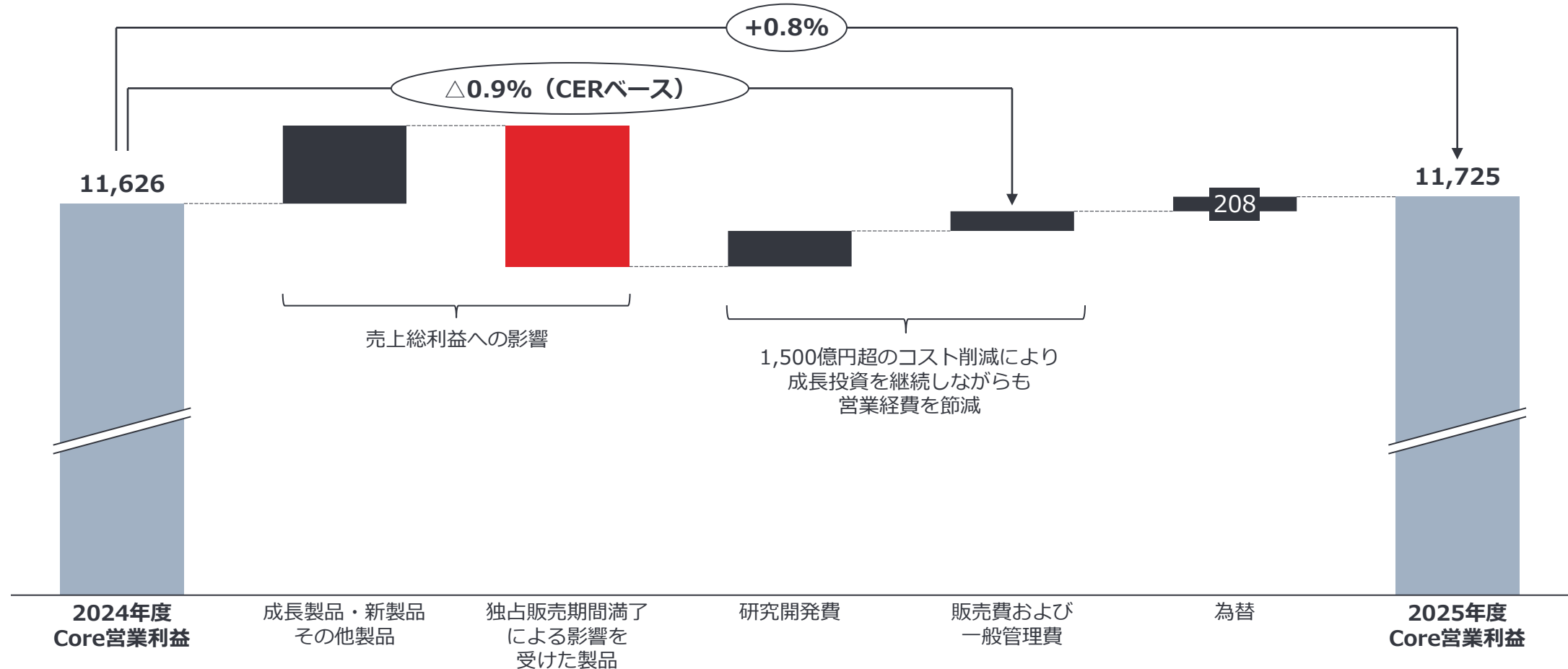
上記は参考図  
2025年度は、財務ベース売上収益からCore売上収益への調整が発生しなかったため、財務ベース売上収益とCore売上収益は同額です。

# 効率化プログラムを通じた営業経費の節減により 成長投資を行いながらもCore営業利益を維持



## 2025年度（4-3月）CORE営業利益（対前年度）

(億円)

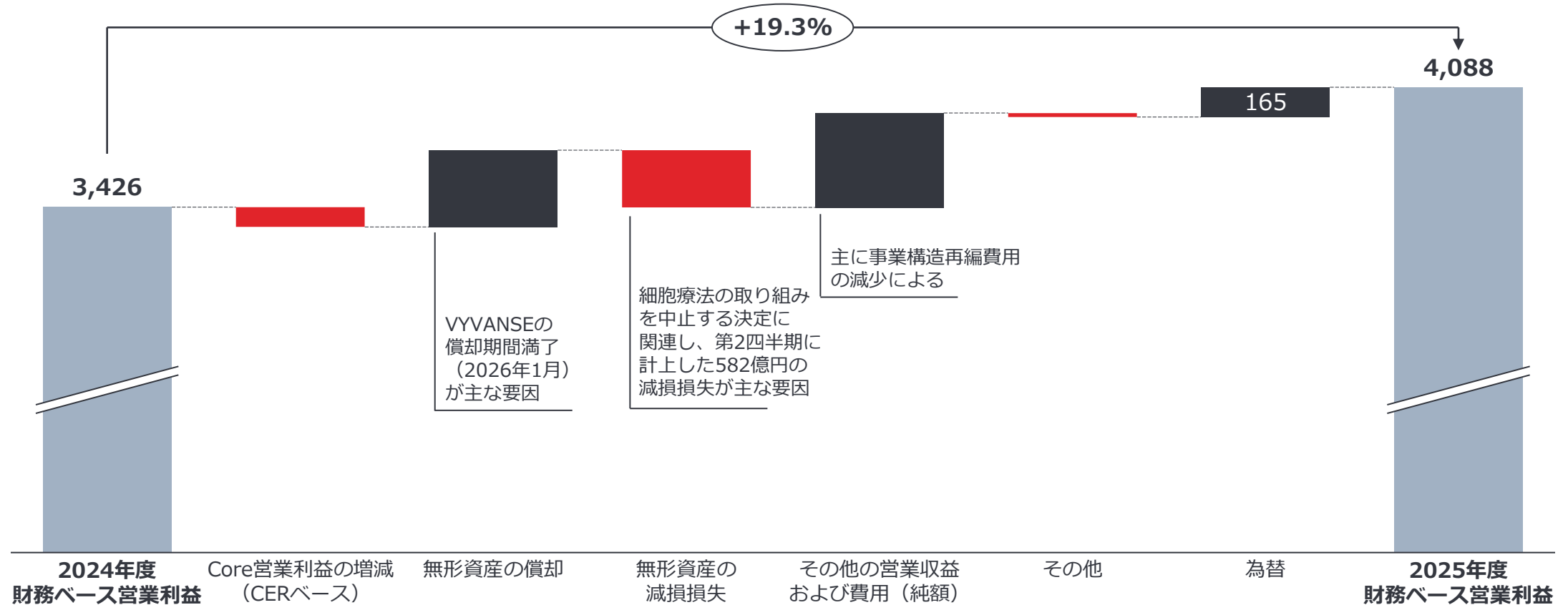


# 財務ベース営業利益： 償却費および事業構造再編費用の減少により財務ベース営業利益は増益



## 2025年度（4-3月）財務ベース営業利益（対前年度）

(億円)

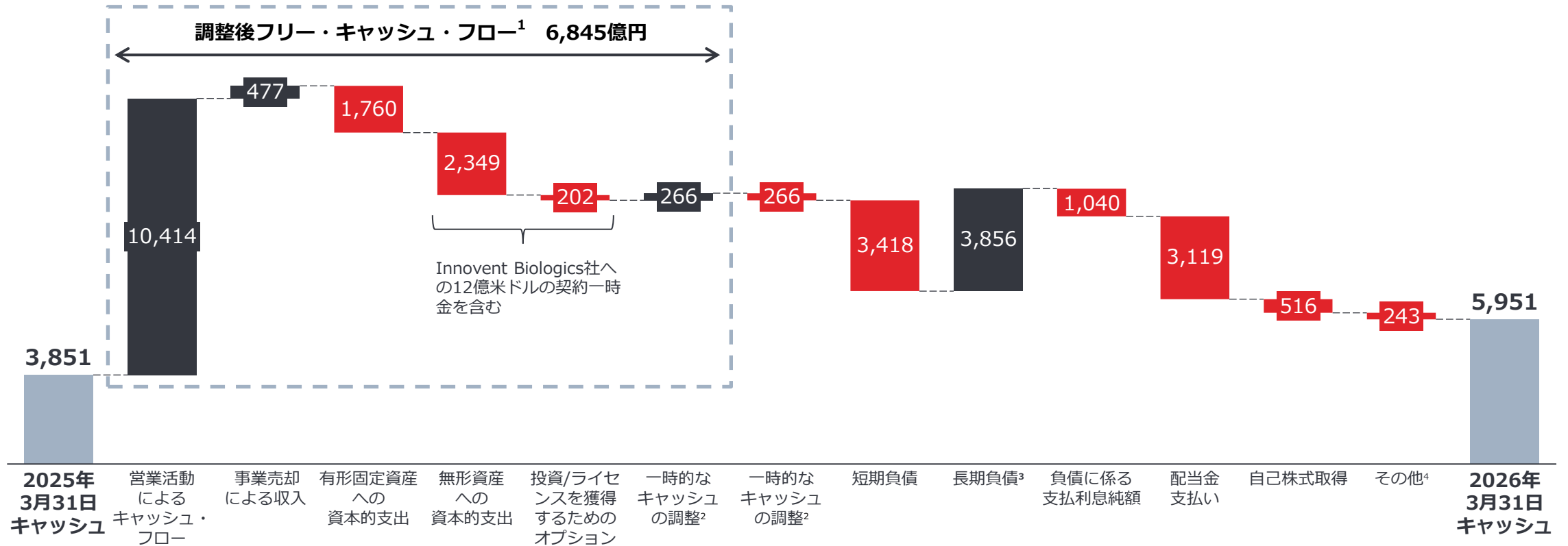


# 調整後フリー・キャッシュ・フローは6,845億円と見通しどおりの着地 期末のキャッシュ残高も高水準



## 2025年度（4-3月）調整後フリー・キャッシュ・フロー

(億円)

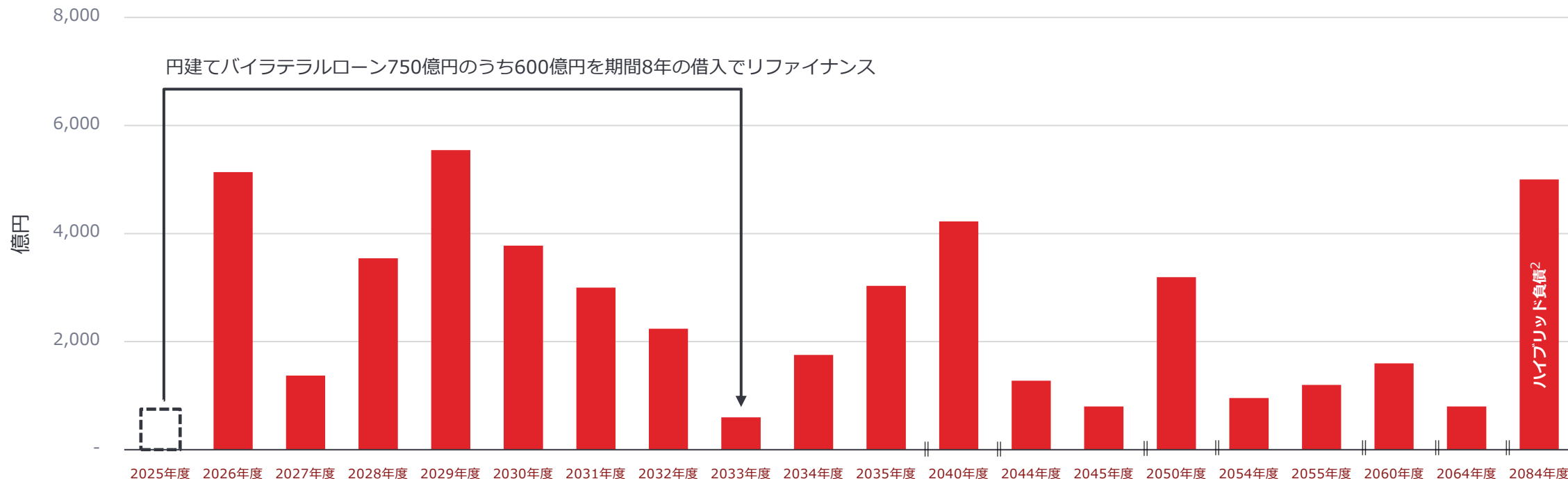


1. 定義はA-2ページ、調整表はA-12ページをご参照下さい。  
 2. ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関して当社が第三者に代わり一時的に保有していた現金の変動を指します。  
 3. 長期負債の変動：【増加】2025年6月の1,840億円のシニア債発行、2025年7月の24億米ドルのシニア債発行、2026年3月の600億円のバイラテラルローンの借換え  
 【減少】2025年4月の100億円のバイラテラルローン返済、2025年6月の8億米ドルのBaxalta債の償還、2026年3月の750億円のバイラテラルローン返済  
 4. キャッシュへの為替影響やリース債務などが含まれます。

# 2026年度に償還期限を迎える負債は 主に手元資金とフリー・キャッシュ・フローで返済予定



## 2026年3月31日時点のマチュリティラダー<sup>1</sup>



2025年度第4四半期に償還期限を迎えたバイラテラルローン：600億円は期間8年の借入でリファイナンス、150億円は手元資金で返済  
 2026年度に償還期限を迎える負債は、長期有利子負債によるリファイナンスを行わずに返済する計画  
 負債の100%が固定金利（加重平均金利：約2.4%）、負債の平均残存期間は約10年

1. 外貨建負債については、会計報告目的のために実際の変換レートを使用し、2026年3月末時点の為替レート（159.59円/米ドル、183.03円/ユーロ）で換算している。  
 2. 2084年度のハイブリッド負債（5,000億円）は、ハイブリッド社債4,600億円（2024年6月発行、2084年6月満期）とハイブリッドローン400億円（2024年10月借入、2084年10月満期）で構成される。

# 営業経費節減の確かな実績

## 新たなトランスフォーメーション・プログラムにより、さらなる効率化を目指す



### 2024-2025年度 全社的な効率化プログラム

#### 組織の機動性

- 2年間で4,000以上のポジションに影響する人員最適化と研究開発の優先順位付け
- 研究開発拠点の閉鎖および製造拠点の売却を含む戦略的な拠点見直し

#### 調達コスト削減

- バリューチェーン全体にわたる調達コストの削減（製造委託、研究開発支援、人員を含むマーケティング支援、施設や設備、ITなど）

#### データ デジタル テクノロジー (DD&T)

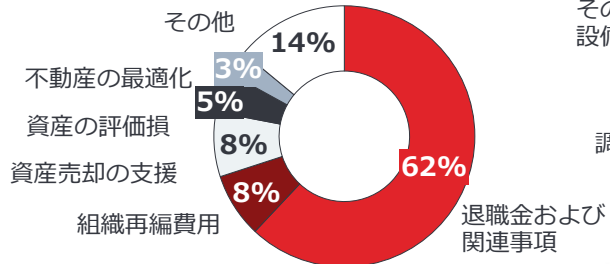
- Innovation Capability Centers (ICC) の拡大によりDD&Tの内製化および能力向上を推進

### 2026年度以降 新組織体制に沿ったトランスフォーメーション・プログラム

- コーポレート機能の集約および効率化
- 組織内の管理階層を削減し、患者さんおよび顧客により近づける組織体制へ
- 調達の最適化に継続して注力
- 先進技術の活用によるプロセスの簡素化およびGlobal Capability Centersの拡充

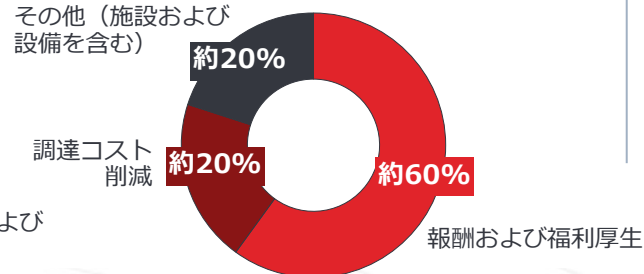
事業構造再編費用  
(24~25年度累計)

約2,000億円



コスト削減額  
(25年度末時点の年換算)

約3,000億円



**事業構造再編費用**：2026年度に約1,700億円  
2027年度および2028年度はこれを下回る水準となる見込み

**節減効果（総額）**：2028年度までに年換算2,000億円以上  
2026年度は約1,000億円の節減を見込む

**影響を受けるポジション数**：2026年度に約4,500ポジション  
(総数)

# 2026年度見通し：成長投資に注力する一年



(億円、EPSを除く)	財務ベース		CORE		CORE増減率 (CERベース) 2026年度マネジメントガイダンス
	2026年度予想	対前年度	2026年度予想	対前年度	
売上収益	46,400	+3.0%	46,400	+3.0%	一桁台前半%の減少
営業利益	4,200	+2.7%	11,600	△1.1%	5%~8%の減少
EPS	104円	△14.4%	472円	△8.7%	10%台半ばの減少

調整後フリー・キャッシュ・フロー	6,500 - 7,500
------------------	---------------

1株当たり年間配当金	204円
------------	------

- 売上収益予想：成熟製品ポートフォリオのマイナス影響を反映。新製品への転換期となる年
- Core営業利益予想：新製品上市および研究開発への大規模な投資を織り込むものの、トランスフォーメーション・プログラムによる節減効果が一部相殺すると想定
- 財務ベース営業利益予想：概ね前年度と同水準を想定  
VYVANSEの無形資産償却の終了による増益影響をトランスフォーメーション・プログラムに伴う事業構造再編費用が相殺
- Coreおよび財務ベースEPS予想：2025年度における有利な税務要因の反動影響を想定
- 調整後フリー・キャッシュ・フロー予想：安定した推移を見込む。1株当たりの配当金は204円への増配を予定

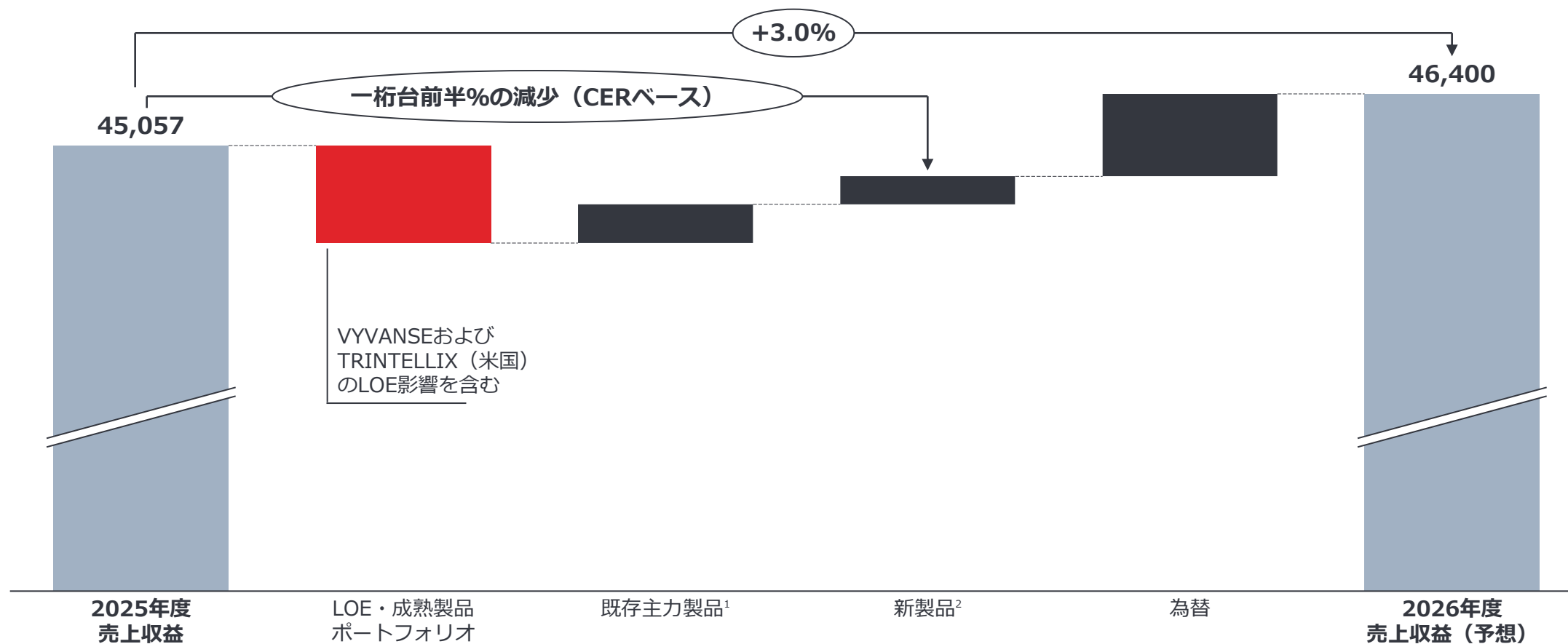
為替の前提は、156円/米ドル、182円/ユーロを想定。為替感応度については、A-20ページをご参照ください。

# 売上収益予想：成熟製品ポートフォリオのマイナス影響を反映 新製品への転換期となる年



## 2026年度 売上収益予想

(億円)



上記は参考図

LOE：独占販売期間満了

2025年度は財務ベース売上収益からCore売上収益への調整は発生せず、2026年度予想においても同調整は想定されていないため、両年度の財務ベース売上収益およびCore売上収益は同額を予想しています。

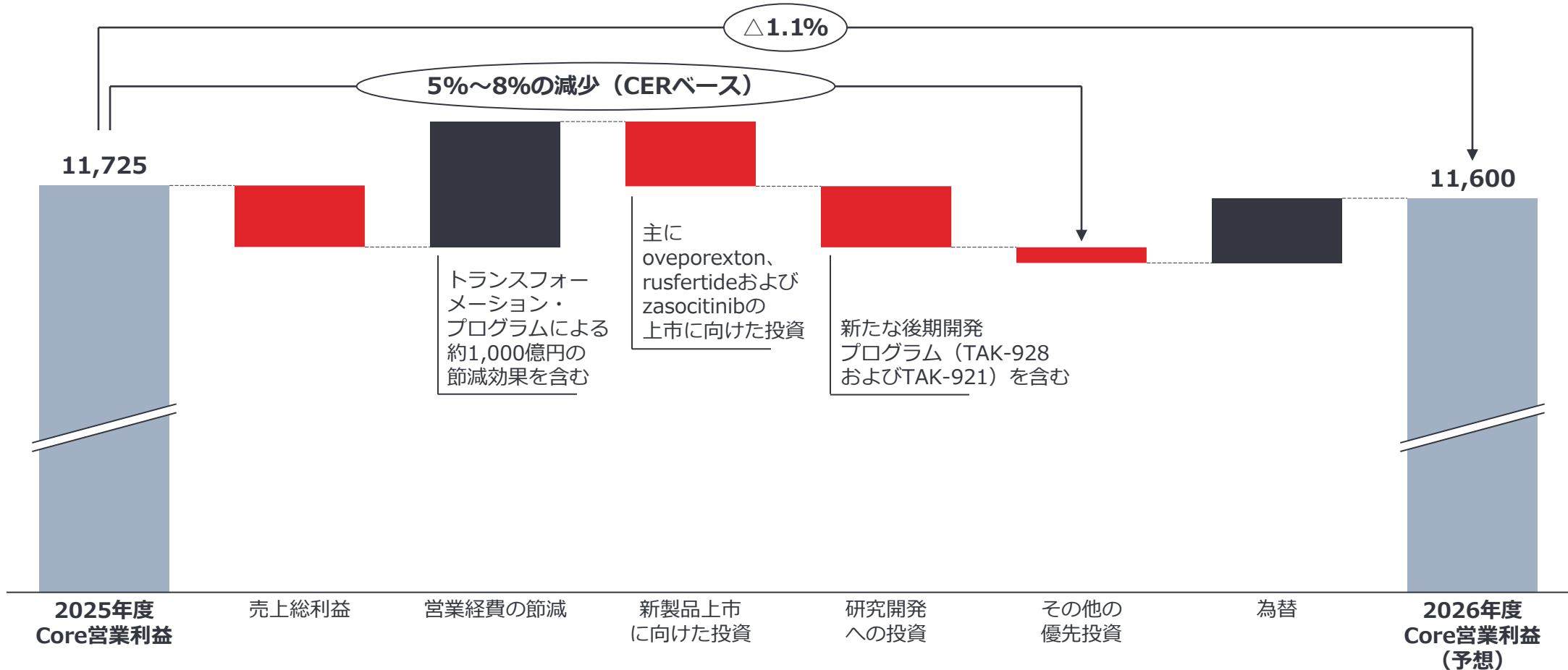
- 「既存主力製品」は、上市後6年以上経過し、年間売上高が1,000億円超であり、積極的に情報活動が行われている特定の製品（ENTYVIO、GATTEX/REVESTIVE、TAKECAB/VOCINTI、TAKHZYRO、免疫グロブリン製剤、アルブミン製剤、ADCETRIS）を指す。
- 「新製品」は、過去5年以内に上市された特定の製品（EOHILIA、LIVTENCITY、ADZYNMA、FRUZAQLA、QDENG）に加え、今後上市予定の製品（rusfertide、oveporexton、zasocitinib）を指す。今後上市予定の製品による売上収益は規制当局からの承認取得が前提。

# 成長投資の一年： トランスフォーメーション・プログラムによる節減効果を充当



## 2026年度 CORE営業利益予想

(億円)

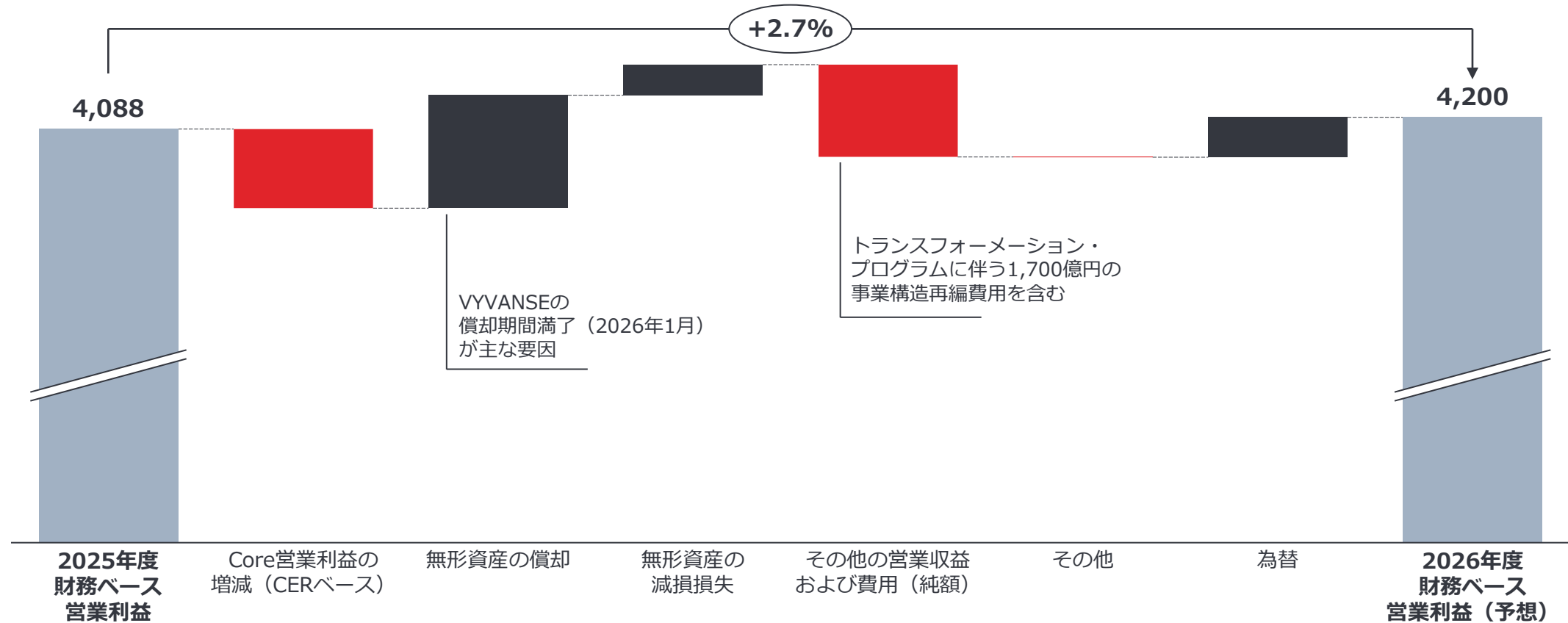


# 財務ベース営業利益：VYVANSEの無形資産の償却期間満了による増益影響を事業構造再編費用が相殺



## 2026年度 財務ベース営業利益予想

(億円)



## 2つの成長段階（Horizon）にわたり厳格な財務規律を徹底

### Horizon 1 : 成長に向けた変革 競争力の強化と成長エンジンの構築

- 新製品の規模拡大に伴い、売上収益成長へ回帰
- 優先順位に沿った意思決定によりCore営業利益を維持
- 財務ベース利益の改善およびROE 5%以上を達成
- 強固な調整後フリー・キャッシュ・フローを維持し、負債圧縮を推進

### Horizon 2 : 成長の加速

長期的な収益性の向上と患者さんへの価値創出

- 新製品を原動力とした力強い売上収益成長を実現
- Core営業利益率を30%台前半から半ばへ拡大
- 資本効率指標を大幅に改善
- さらなる成長に向け、ターゲットを絞った投資を推進

# 成長と株主還元へのコミットメント



当社は、革新的な医薬品を創出し続けるという「私たちが目指す未来」（ビジョン）のもと、健全な財務基盤を維持しながら（堅実な投資適格格付を維持し、調整後純有利子負債／調整後EBITDA倍率2倍を目指す）、患者さんに持続的な価値を、株主には魅力的なリターンを提供できるよう資本を配分してまいります。



## 成長ドライバーへの投資

- 新製品の上市
- パイプライン拡充のための社内外の機会
- 血漿分画製剤事業

## 株主還元

- 毎年の年間配当金を増額または維持する累進配当の方針
  - » 2026年度は204円への増配を予定
- 自社株式の取得は適切な場合に取り組む

# AGENDA



## オープニングリマークス

クリストフ・ウェバー 代表取締役社長 CEO

## ビジネスハイライト

ジュリー・キム 次期CEO

## 財務ハイライト

古田 未来乃 チーフ フィナンシャル オフィサー

## パイプラインアップデート

アンディー・プランプ リサーチ&デベロップメント プレジデント

## クロージングリマークス

ジュリー・キム 次期CEO

## 質疑応答

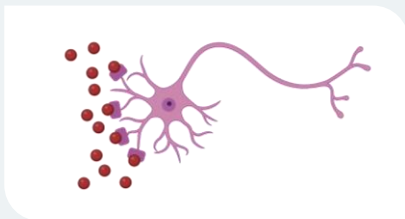


# 今後12カ月で3つの革新的な新薬を上市予定 当社は新たな成長局面へ



## Oveporexton

ナルコレプシータイプ1



ナルコレプシータイプ1 (NT1) の幅広い症状に対し革新的な有効性を示し、標準治療を再定義しうるオレキシン作動薬

**上市予定**  
2026年 (下期)



## Rusfertide

真性多血症



迅速、持続的かつ長期にわたりヘマトクリットをコントロールし、重大なアンメット・ニーズに対応するヘプシジンミメティックス (類似薬)

**上市予定**  
2026年 (下期)



## Zasocitinib

乾癬



高い選択性を有する次世代の経口TYK2阻害剤  
利便性を備えた1日1回の内服薬で  
迅速かつ持続的に皮膚病変が改善

**上市予定**  
2027年 (上期)

● ブレークスルーセラピー指定 ● ファストトラック指定 ● 希少疾病用医薬品 (オーファンドラッグ) 指定 ● 先駆的医薬品指定 (日本)、ブレークスルーセラピー指定 (中国)

# Zasocitinib : 拡大する経口薬市場において

患者さんの乾癬治療における中心的な経口治療選択肢となることを目指す



1

迅速かつ持続的な  
皮膚病変の改善  
新たな安全性シグナルは  
認められなかった

2

空腹時服用の条件がなく  
利便性が高い1日1回の内服薬

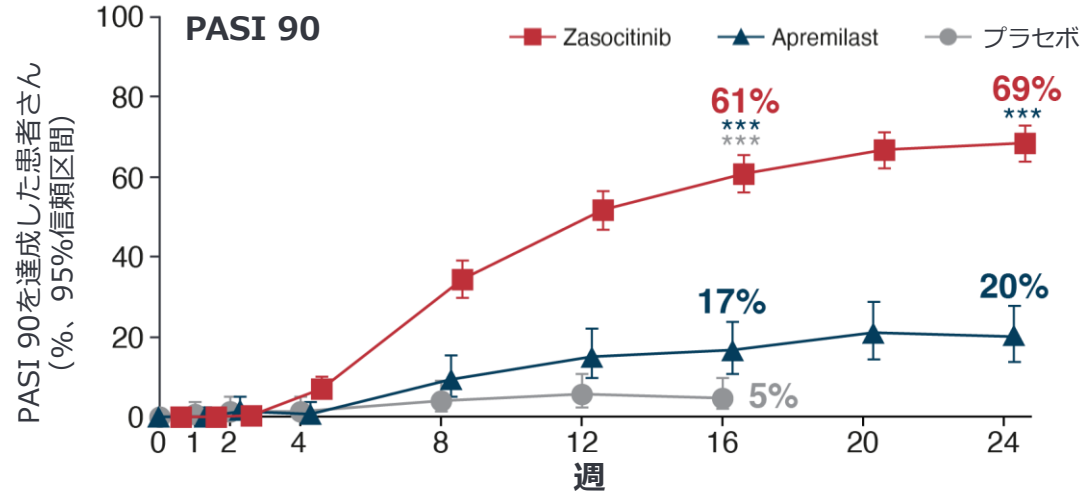
3

高い選択性を有する  
次世代の経口TYK2阻害剤

# Zasocitinibはapremilastまたはプラセボと比較し 4週時点という早期から高いPASI 90達成率を示した



LATITUDE-PsO-3001



PASI 90 レスポンダー：ベースラインBSA 25%



ベースライン

PASI : 15.8

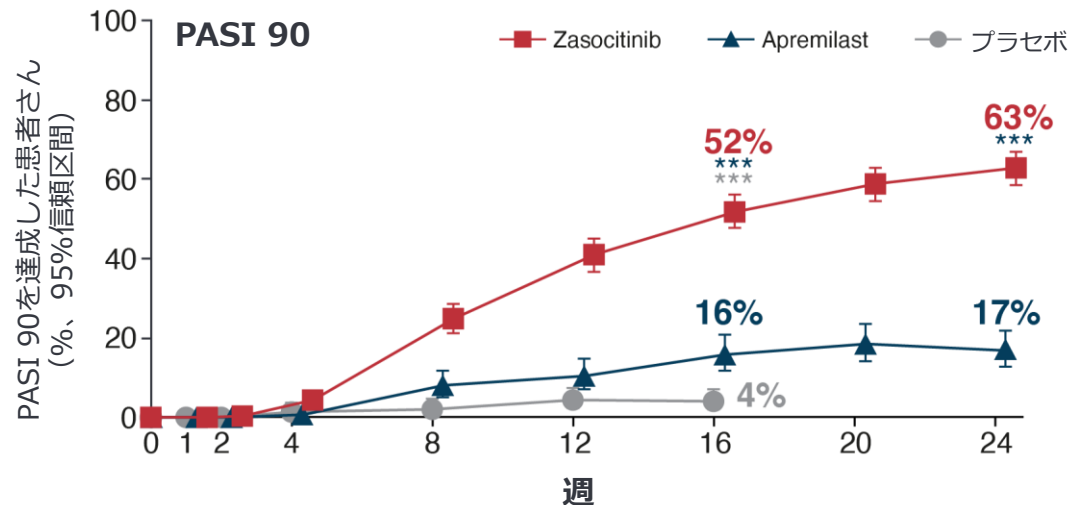


16週時点

PASI : 0.7

皮膚病変の改善度 95.6%

LATITUDE-PsO-3002

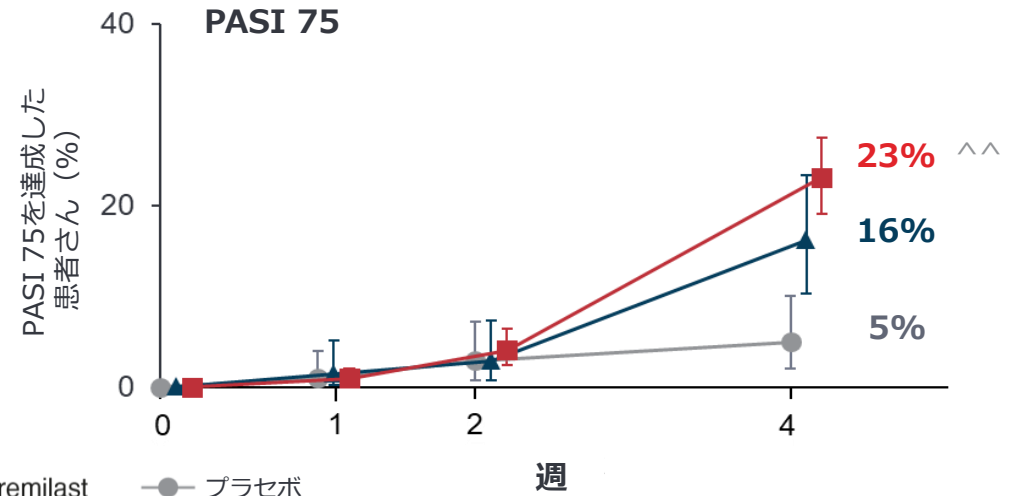
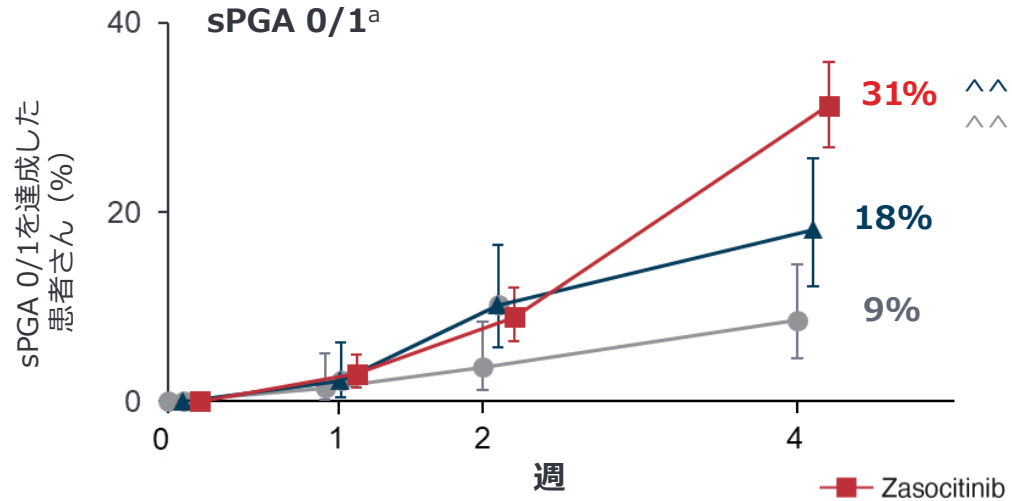


30 ノンレスポンス補完を用いた最大の解析対象集団に基づく患者数。LATITUDE-PsO-3001: Zasocitinib (n=416)、apremilast (n=137)、プラセボ (n=140)。LATITUDE-PsO-3002: Zasocitinib (n=555)、apremilast (n=276)、プラセボ (n=277)。Apremilast群 (青色) およびプラセボ群 (灰色) との比較におけるp値は層別Cochran-Mantel-Haenszel検定に基づく (\*\*\*) : p<0.001)。主な副次評価項目: PASI 90 (16週時点、対プラセボ)、PASI 90 (16週時点、対apremilast)、PASI 90 (24週時点、対apremilast)。PASI: 乾癬の重症度を表す指標、BSA: 体表面積に占める乾癬病変の割合

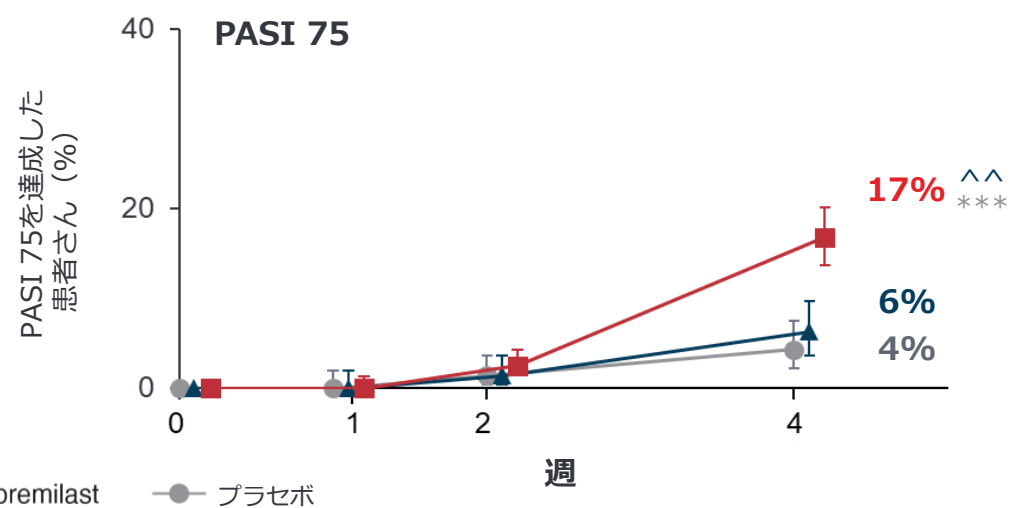
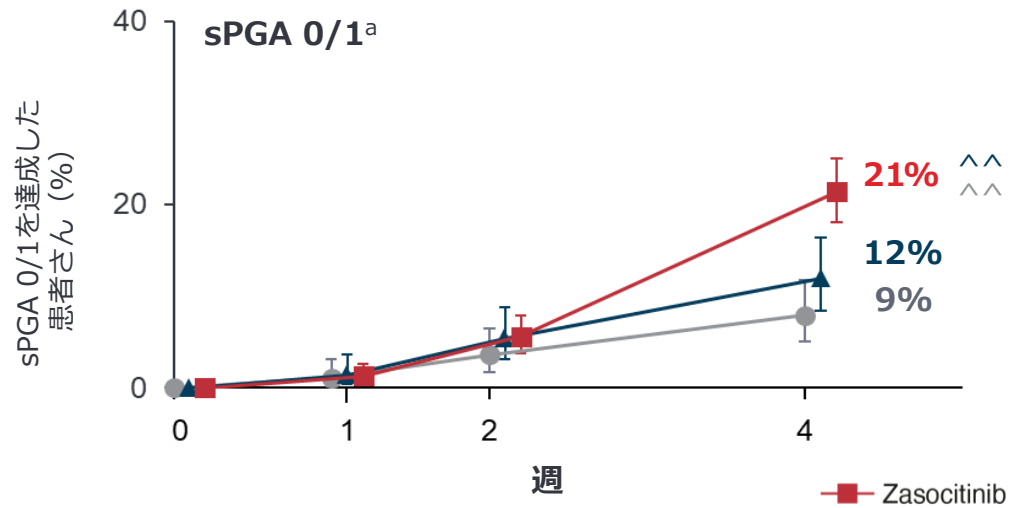
# Zasocitinibは4週時点という早期から皮膚病変を速やかに改善



## LATITUDE-PsO-3001



## LATITUDE-PsO-3002



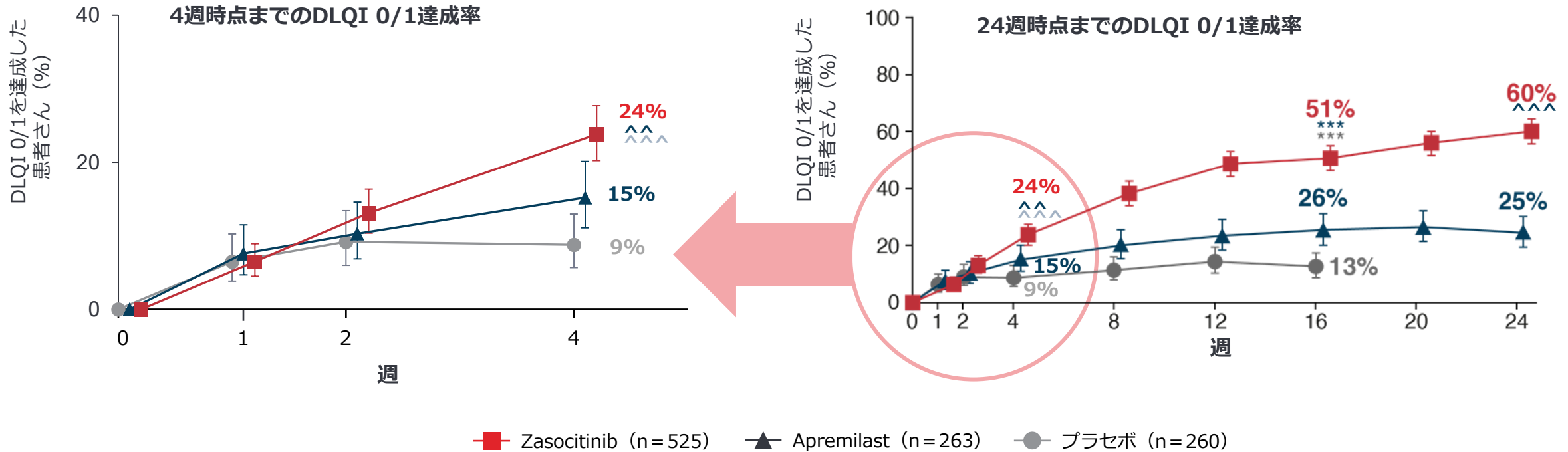
a. ベースラインから2ポイント以上の低下。ノンレスポnder補完を用いた最大の解析対象集団に基づく患者数。 LATITUDE-PsO-3001: Zasocitinib (n=416)、apremilast (n=137)、プラセボ (n=140)。LATITUDE-PsO-3002: Zasocitinib (n=555)、apremilast (n=276)、プラセボ (n=277)。Apremilast群 (青色) およびプラセボ群 (灰色) との比較におけるp値は層別Cochran-Mantel-Haenszel検定に基づく (\*\*\*) : p<0.001、^^ : 名目上 p<0.01、^^^ : 名目上 p<0.001)。誤差範囲は95%信頼区間を示す。 PASI : 乾癬の重症度を表す指標、sPGA : 医師による静的総合評価。主な副次評価項目 : 3002試験における4週時点のPASI 75 (対プラセボ)。

# Zasocitinibはapremilastまたはプラセボと比較し 4週時点という早期からDLQIの改善で優れた結果を示した



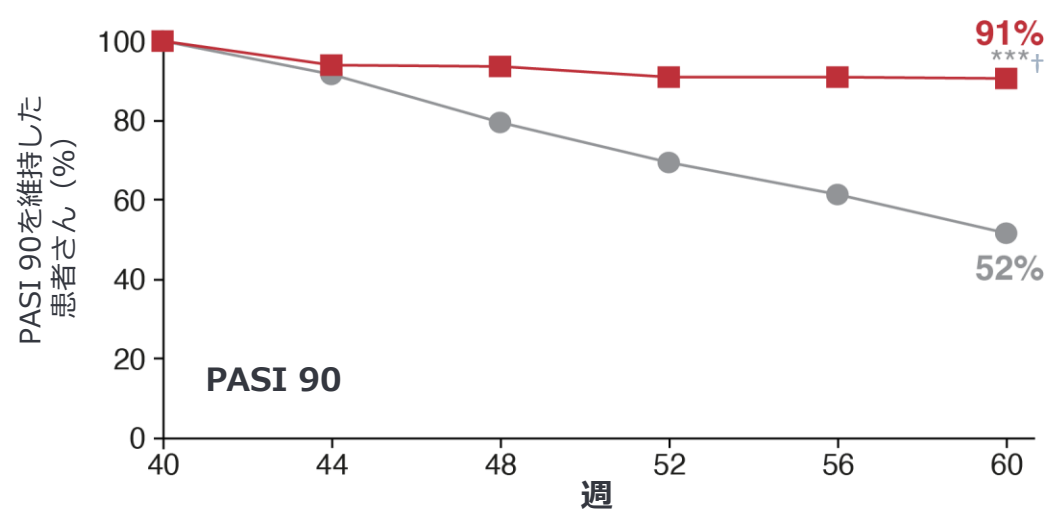
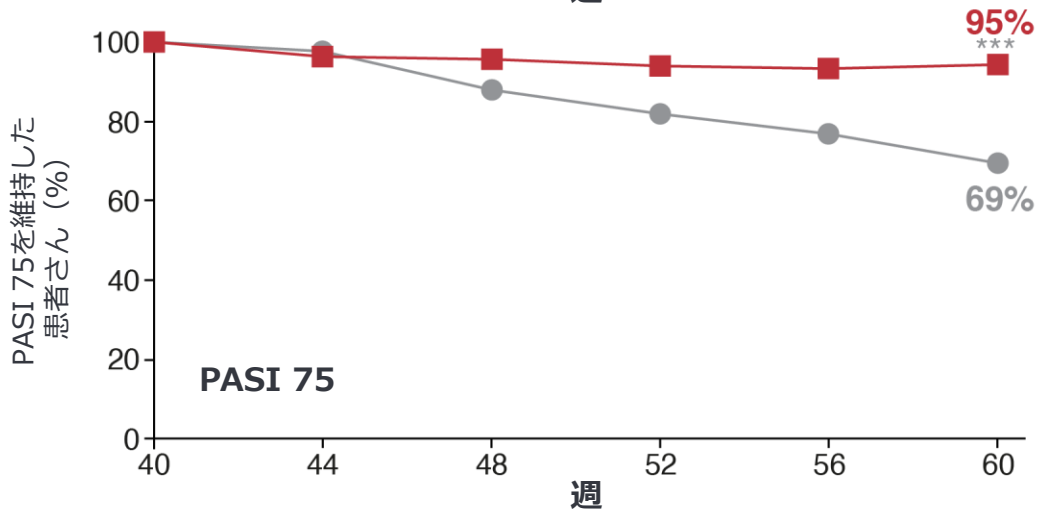
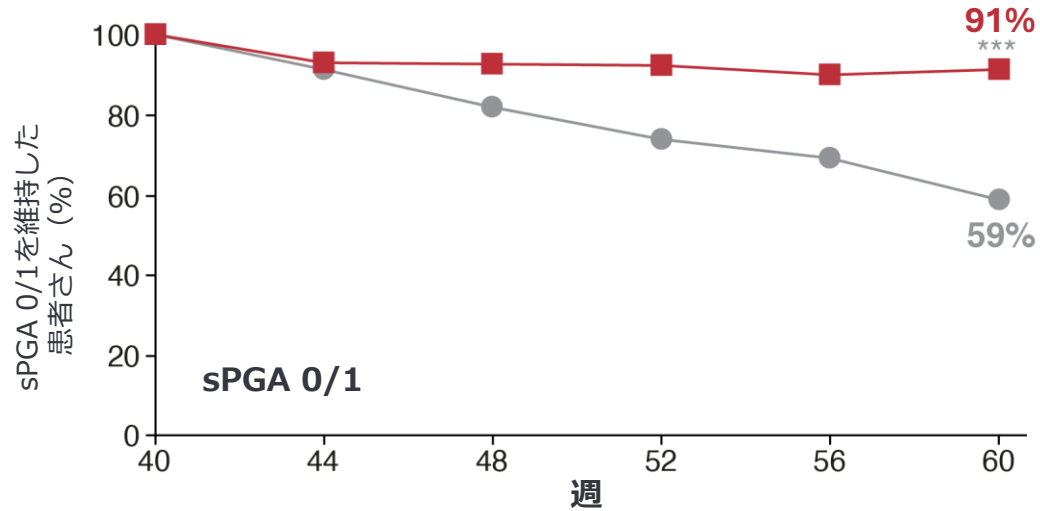
DLQIによる奏効は、ベースラインのDLQIスコアが2以上であった被験者のうち、DLQIスコア0/1を達成した被験者の割合と定義  
DLQI 0/1とは、乾癬が生活の質に全く影響していない状態を指す

## LATITUDE-PsO-3002



\*\*\*: p<0.001、^^: 名目上 p<0.01、^^^: 名目上 p<0.001。誤差範囲は95%信頼区間を示す。Apremilast群（青色）およびプラセボ群（灰色）との比較におけるp値は層別Cochran-Mantel-Haenszel検定に基づく。  
ノンレスポンス補完は、以下の事象を併発した際に適用：治療の恒久的な中止、プロトコルで禁止された乾癬を改善し得る治療の開始、またはその他の評価項目データの欠落。DLQI：皮膚疾患が患者さんのQOLに与える影響を評価する指標。  
主な副次評価項目：16週時点のDLQI 0/1（対プラセボ）、第16週時点のDLQI 0/1（対apremilast）

# 優れた持続性：40週以降もzasocitinibの投与を継続した患者さんの90%以上が60週時点でsPGA 0/1、PASI 75およびPASI 90を維持



## LATITUDE-PsO-3002 治療中断群への無作為再割付

40週時点でzasocitinibからプラセボに再割付された患者さんの多くが、sPGA 0/1 (59%)、PASI 75 (69%) およびPASI 90 (52%) をその後約5か月間維持

■ Zasocitinib継続

● Zasocitinib → プラセボ

33 無作為再割付後、ノンレスポnder補完を用いた最大の解析対象集団に基づく評価可能患者数。sPGA 0/1: Zasocitinib継続 (n=255)、zasocitinib-プラセボ (n=126)。PASI 75の患者数: Zasocitinib継続 (n=273)、zasocitinib-プラセボ (n=134)。PASI 90の患者数: Zasocitinib継続 (n=238)、zasocitinib-プラセボ (n=122)。Zasocitinib-プラセボ (灰色) との比較におけるp値は層別Cochran-Mantel-Haenszel検定に基づく (\*\*\*) ; p<0.001、\*\*\*† ; 名目上 p<0.001)。PASI: 乾癬の重症度を表す指標、sPGA: 医師による静的総合評価。主な副次評価項目: 40週時点でPASI 75を達成した患者さんにおける60週時点でのPASI 75維持、40週時点でsPGA 0/1を達成した患者さんにおける60週時点でのsPGA 0/1維持。

# Zasocitinib : 皮膚病変を迅速かつ持続的に改善する 利便性が高い1日1回の内服薬



## Zasocitinibは皮膚病変の迅速かつ持続的な改善を示した

- 24週時点で、患者さんの49%が皮膚病変の完全な消失（クリアスキン、sPGA 0）を達成
- 迅速に奏効** PASI 75およびsPGA 0/1において4週時点という早期から群間差が示された
- 持続的に奏効** 40週以降もzasocitinibの投与を継続した患者さんの90%以上が60週時点でsPGA 0/1およびPASI 90を維持
- 4週時点までに**生活の質（QOL）の改善**が認められ、時間の経過とともにさらに改善を続け、24週時点には患者さんの最大60%が日常生活への乾癬による影響がない（DLQI 0/1）と報告

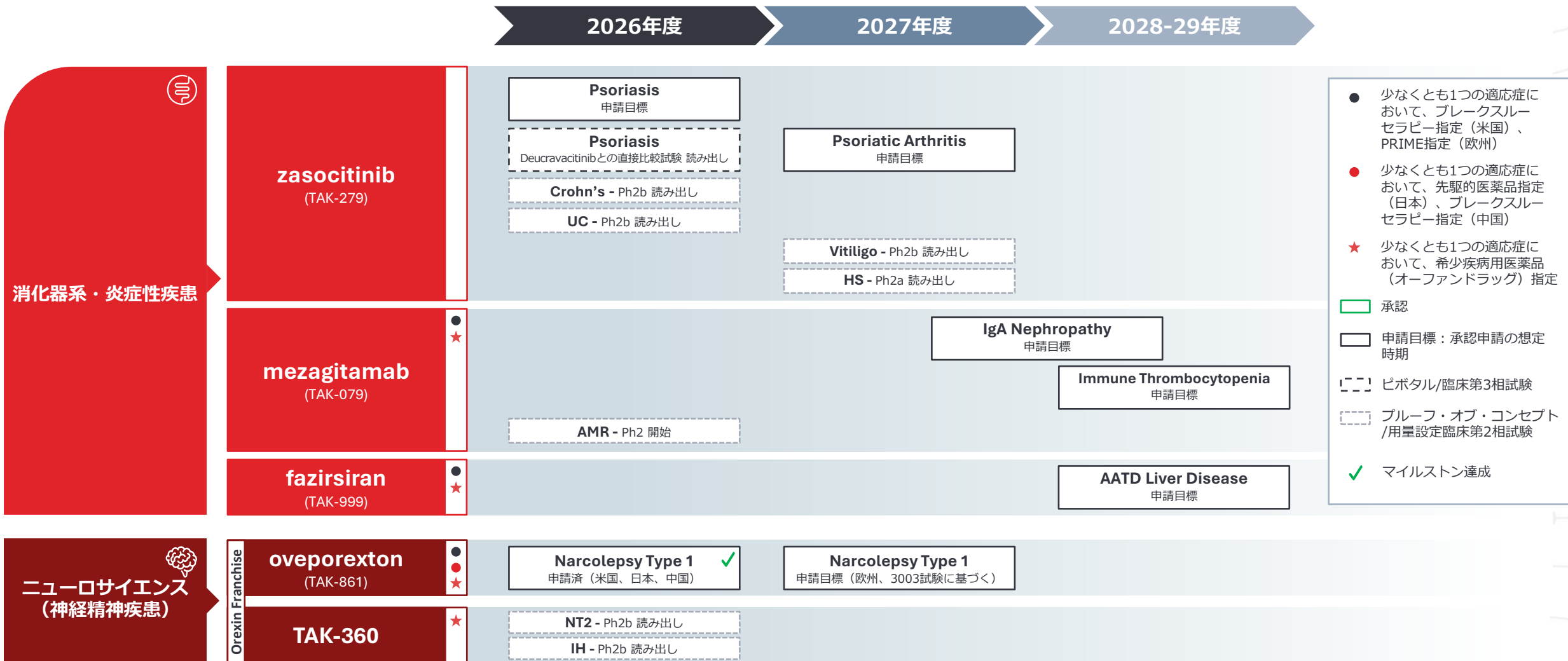
24週時点	3001試験	3002試験
sPGA 0/1	74%	71%
PASI 90	69%	63%
sPGA 0	49%	41%
PASI 100	42%	32%



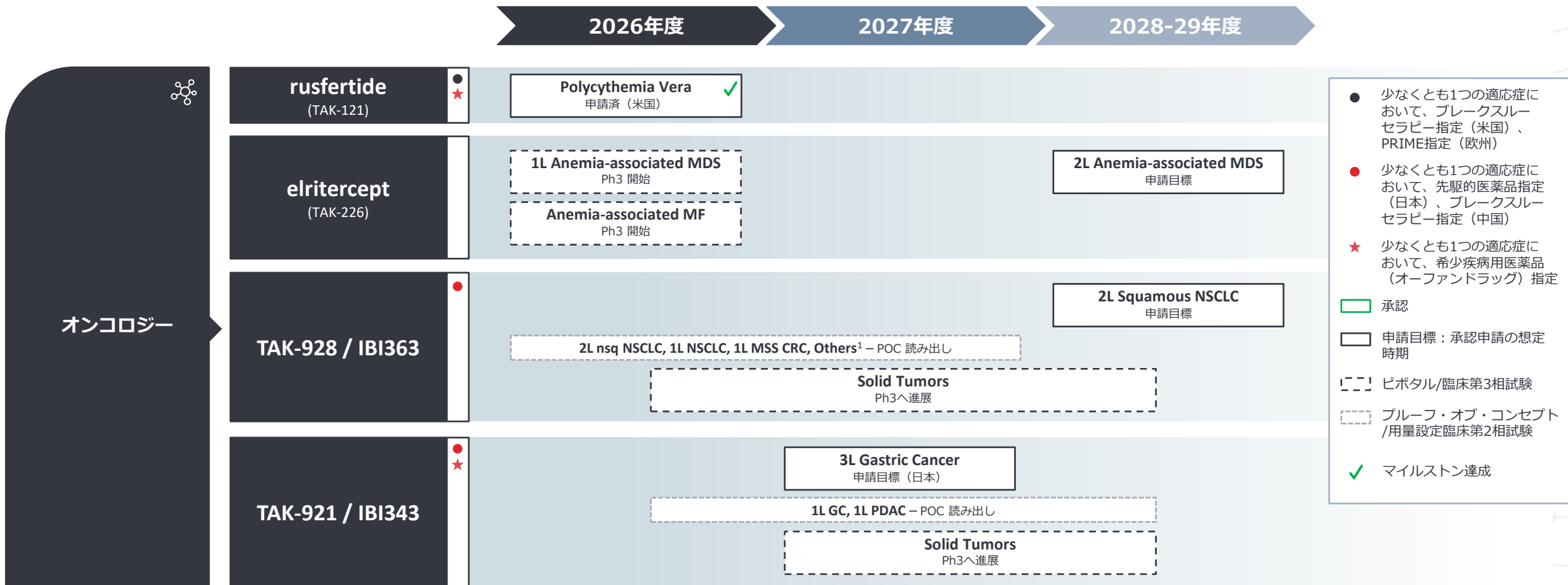
## Zasocitinibは概ね良好な忍容性を示した

- Zasocitinibの安全性プロファイルは、これまでに報告された内容<sup>1</sup>と一貫していた
- コレステロールや脂質の上昇<sup>2</sup>など、臨床検査値に経時的な変動傾向は認められなかった
- 米国およびグローバル申請は2026年度に開始予定

# 患者さんの人生を一変させ、大きな価値をもたらす可能性を持つ 後期開発プログラムを推進



# 患者さんの人生を一変させ、大きな価値をもたらす可能性を持つ 後期開発プログラムを推進



1. Innovent社が追加の適応症における早期開発段階の試験を実施中。

全てのタイムラインは2026年5月13日時点におけるおおよその予測で、変更される場合があります。表中の研究開発マイルストーンは包括的なものではありません。疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。後期開発プログラム: ピボタル試験試験を実施中または開始が見込まれるプログラム、もしくはブルーフ・オブ・コンセプトを達成したプログラム。

# 2026年度および2027年度における主要な候補物質の見通し



	2026年度	2027年度	2028-30年度
米国における承認の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>oveporexton – NT1</li> <li>rusfertide – PV</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>zasocitinib – PsO</li> <li>TAK-881 (20% fSCIG) – PID</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間平均2-3件の新規候補物質および/または米国における重要なライフ・サイクル・マネジメントによる適応拡大の申請を見込む</li> <li>10以上の臨床第3相試験が進行中または計画</li> </ul>
承認申請の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>zasocitinib – PsO</li> <li>TAK-881 (20% fSCIG) – PID</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>zasocitinib – PsA</li> <li>oveporexton – NT1 (欧州)</li> <li>TAK-921 – 3L GC (日本)</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>mezagitamab – IgAN</li> </ul>	
主要なPOCデータの読み出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>zasocitinib – UC</li> <li>zasocitinib – Crohn's</li> <li>TAK-360 – NT2</li> <li>TAK-360 – IH</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>zasocitinib – Vitiligo</li> <li>zasocitinib – HS</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-928 – 2L nsq NSCLC, 1L NSCLC, 1L MSS CRC</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-921 – 1L GC, 1L PDAC</li> </ul>		

37 全てのタイムラインは2026年5月13日時点におけるおおよその予測で、変更される場合があり、また臨床試験・承認申請の結果に左右されます。表中の研究開発マイルストーンは包括的なものではありません。疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

# AGENDA

## オープニングリマークス

クリストフ・ウェバー 代表取締役社長 CEO

## ビジネスハイライト

ジュリー・キム 次期CEO

## 財務ハイライト

古田 未来乃 チーフ フィナンシャル オフィサー

## パイプラインアップデート

アンディー・プランプ リサーチ&開発 プレジデント



## クロージングリマークス

ジュリー・キム 次期CEO

## 質疑応答



# 新たな時代を創る二つの成長段階：変革から成長加速へ

## Horizon 1：成長に向けた変革 競争力の強化と成長エンジンの構築

- 3つの上市成功を起点に新たな成長ドライバーを確立
- 重要な転換点を経て強固な後期開発パイプラインを推進
- 既存主力製品の収益基盤としての安定性と競争力を確保
- 組織能力の創出と効率化を実現する  
トランスフォーメーション・プログラムを推進

## Horizon 2：成長の加速

長期的な収益性の向上と患者さんへの価値創出

- 初期の上市製品群の規模拡大を推進し売上収益を最大化
- 後期開発パイプラインから次の新製品群を上市
- 研究開発エンジンから新たな治療薬候補を継続的に創出
- 先進技術によりスピード・品質・効率性を向上

Capital Markets Dayを2026年度後半に計画

## 質疑応答



**クリストフ・ウェバー**

代表取締役社長 CEO



**ジュリー・キム**

次期CEO



**古田 未来乃**

チーフ フィナンシャル オフィサー



**アンディー・プランプ**

リサーチ&開発 プレジデント



**ロンダ・パチェコ**

U.S. ビジネスユニット プレジデント



**テレサ・ビテッティ**

グローバルオンコロジービジネスユニット プレジデント



# Appendix



# ENTYVIOの成長は ENTYVIO Penの使用拡大により継続



**2025年度 売上収益 9,580億円 (+4.2%成長、CERベース)**

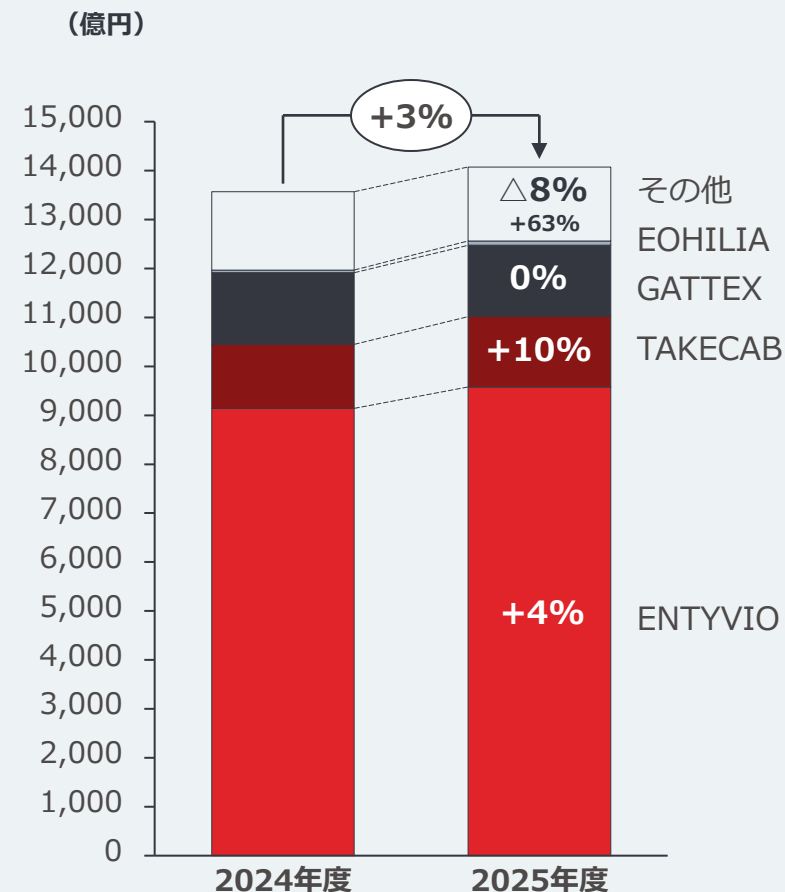
- 米国において、ENTYVIOは炎症性腸疾患（IBD：潰瘍性大腸炎（UC）およびクローン病）に対する治療薬として第1位を維持<sup>1</sup>。UCおよびクローン病に対する唯一の腸管選択的治療薬である
- 米国におけるPen（皮下投与製剤）の投与患者数は前四半期比で二桁台の成長率を示し、数量ベースで静脈注射とPenの比率は89%：11%となった。薬剤給付管理会社（PBM）の大手3社すべてを含むフォーミュラリへの組み入れ拡大や患者アクセス体験の改善により、Penの浸透が継続
- 欧州では、厳しい競争環境下にあるものの、皮下投与製剤の浸透によりENTYVIOの投与患者数および数量は引き続き一桁台後半の成長率を維持しており、IBD先進治療市場全体の伸びをわずかに下回る水準で成長
- 症状寛解や内視鏡的治癒といった治療目標をサポートするための臨床試験や、vedolizumabをバックボーン薬剤としてIBD治療における有効性の限界を超える併用療法の潜在的な役割を検討するための臨床試験への投資
- バイオシミラー参入時期の想定に変更なし。2032年以前に上市を試みるバイオシミラーは、すべての関連特許の侵害の可能性および/またはそれら特許の法的な有効性に対応する必要がある



**2025年度 売上収益 88億円 (+63.2%成長、CERベース)**

- 2024年2月の上市以来、EOHILIAに対する患者さんからの需要は毎月増加し続けている
- 医療従事者の高い認知度および実臨床における良好な治療体験により成長が支えられている  
米国における医療従事者および患者さんとのエンゲージメントと教育に引き続き注力
- EOHILIAは、米国消化器病学会のガイドライン<sup>2</sup>において好酸球性食道炎の第一選択薬として強く推奨され  
米国食品医薬品局（FDA）から承認された唯一の治療薬

## 2025年度 売上収益 消化器系疾患 ポートフォリオ



絶対値は国際会計基準（IFRS）財務ベース  
対前年比はCERベース（定義はA-1ページをご参照下さい）

# TAKHZYROは競争が激化する米国市場において成熟期へ移行



**2025年度 売上収益 2,239億円 (0.4%減少、CERベース)**

- 発売から7年が経過、TAKHZYROは長期的に遺伝性血管性浮腫（HAE）の発作を予防する現代の治療薬としてシェア第1位を継続。約6,900人の患者さんへ投与されており、上市以来20,000人以上の投与実績を有する
- 55カ国以上で発売されており、実臨床における確固たるエビデンス（3.5年を超える投与期間）に支えられ治療成績の向上（生活の質（QOL）の改善効果とHAEの発作を完全に予防する可能性を含む）を実現
- 2歳以上の患者さんにおける長期的な予防を対象に投与可能な初めてのHAE治療薬
- HAE市場における競争が激化する中でも、TAKHZYROは米国市場で確固たるリーダーシップを維持



**2025年度 売上収益 469億円 (+41.0%成長、CERベース)**

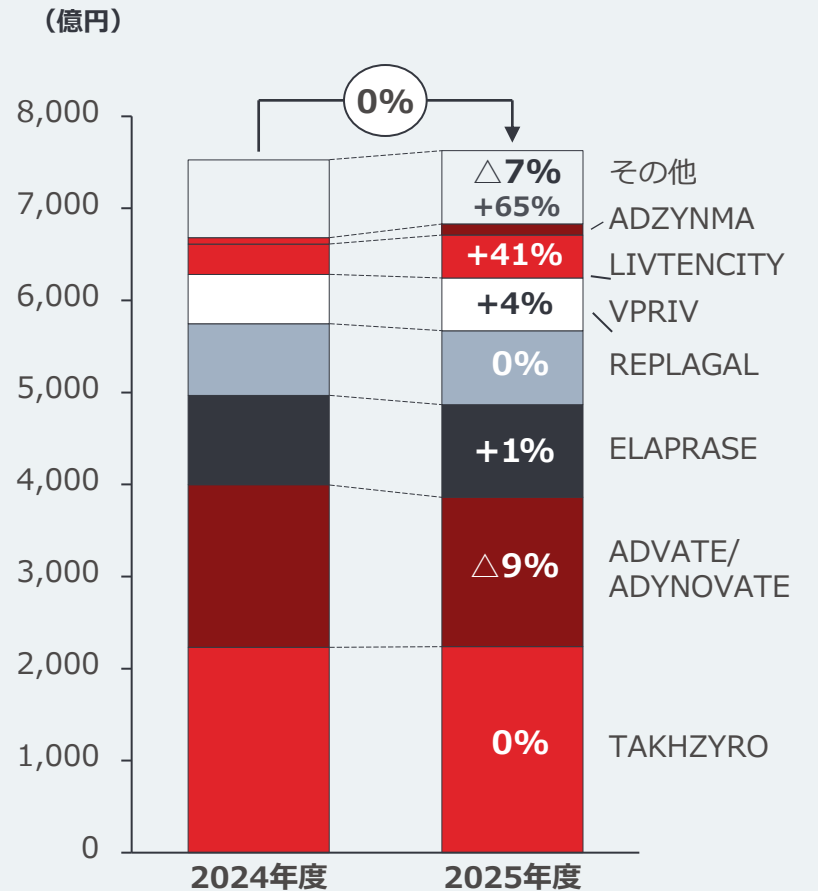
- LIVTENCITYは、米国で力強い勢いが継続。新規投与症例の増加や新規処方医と再処方医の増加に繋がる各移植センターにおける浸透、新規投与症例の増加に繋がる良好な市場アクセスの傾向が牽引
- 一部の患者さんにおける治療期間の長期化や、より幅広い対象患者さんへの処方拡大の可能性など、実臨床での使用は非常に個別化されていることが明らかになっている
- 30カ国以上において使用可能  
直近では日本で上市し、中国では国家医療保険償還医薬品リスト（NRDL）へ収載



**2025年度 売上収益 120億円 (+65.1%成長、CERベース)**

- 堅実な立ち上がりの兆し：非常に高いアンメット・ニーズを有する超希少な患者さん集団に対する医療関係者の高い関心が上市後の勢いを牽引
- cTTPにおける上市後の立ち上がりは当初の想定を上回っており、従来治療法からADZYNMAへの切り替えが急速に進んでいる

2025年度 売上収益  
**希少疾患 ポートフォリオ**



絶対値は国際会計基準（IFRS）財務ベース  
対前年比はCERベース（定義はA-1ページをご参照下さい）

# 血漿分画製剤事業において 短期的な成長と収益性改善を両立



## 免疫グロブリン製剤

2025年度 売上収益 7,906億円  
(+4.1%成長、CERベース)

- パンデミック後の需給が均衡するにつれ、成長は鈍化しているものの、免疫グロブリン市場は1桁台半ばの成長率が見込まれる
- 皮下注用免疫グロブリンポートフォリオの売上高は二桁台の成長率で増加、メディケア・パートD再編による静注用免疫グロブリンへのマイナス影響を相殺
- 米国におけるHyHub/HyHub DuoおよびGammagard Liquid ERCの上市により、免疫グロブリンポートフォリオの差別化を一段と強化

**GAMMAGARD LIQUID**  
[Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%

**Kiovig**  
Human Normal Immunoglobulin (pH)

**HyQvia**  
Human Normal Immunoglobulin (0.5%)  
Recombinant Human Hyaluronidase

**Cuvitru**  
[Immune Globulin Subcutaneous (Human)] 20%

## アルブミン製剤

2025年度 売上収益 1,403億円  
(2.1%減少、CERベース)

- 中国におけるコスト抑制策を背景とした需要の減少影響を受けたものの、中国以外での入札による納入が一部相殺。短期的には成長軌道への回帰を見込む
- 長期的な成長を支えるため、中国以外における重点市場の開拓を継続的に推進

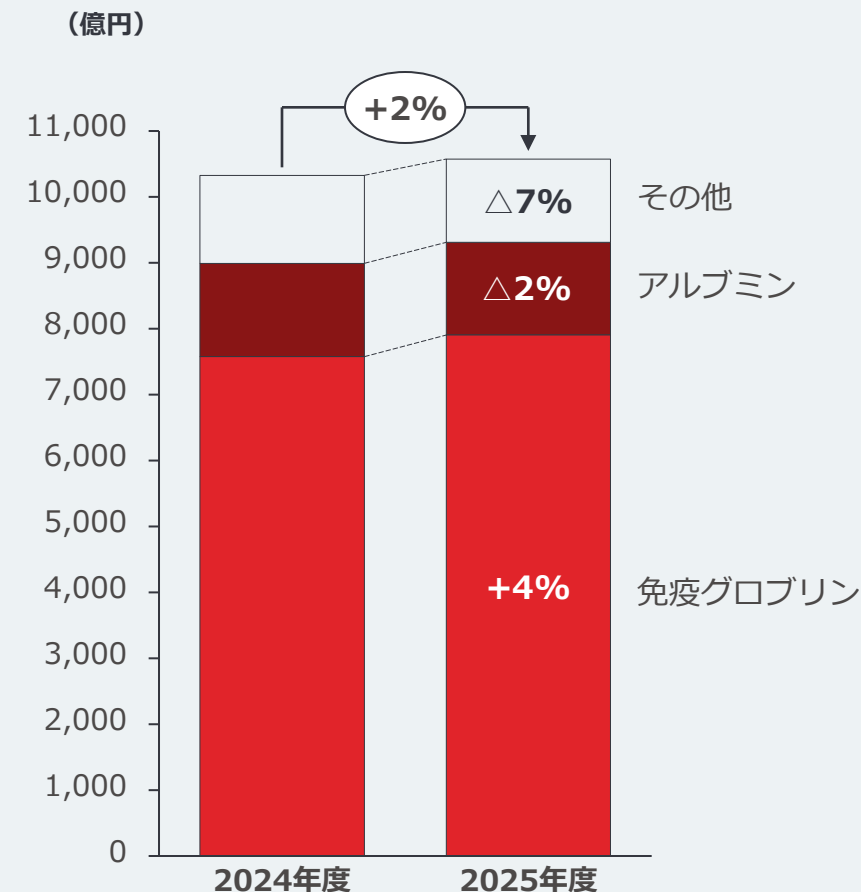
**Flexbumin**  
(Human Albumin)

**HUMANALBUMIN**  
SOLUTION FOR INFUSION

### 利益率の改善とバリューチェーン全体にわたる戦略的な投資を継続

- 皮下注用免疫グロブリンの成長加速、戦略的な市場セグメントへの選択的注力およびデータ、デジタル、テクノロジーの活用による血漿分画製剤事業のバリューチェーン全体の効率化により、3年連続で利益率改善を実現
- 新規に開設したセンターの稼働率向上、ネットワークの最適化、デジタル・トランスフォーメーションにより血漿収集量は増加
- 米国内センターにおけるFresenius Kabi社およびHaemonetics社のノモグラムの全面導入が完了
- 個別化された採漿体験の提供および採漿コストの最適化のため、テクノロジーとAIへの投資を継続
- 製造ネットワーク全体でターゲットを絞った投資を行い、継続的な血漿成分の収率改善や製造能力の拡大および効率化を図る
- 革新的な研究開発への注力を継続：原発性免疫不全症（PID）を対象としたTAK-881（ヒアルロニダーゼ含有20%促進型皮下注用免疫グロブリン製剤）の臨床第3相試験で良好なデータを取得し、皮下注用免疫グロブリン製剤の差別化をさらに強化。2026年度中に米国、欧州、日本での承認申請を見込む

## 2025年度 売上収益 血漿分画製剤 ポートフォリオ



絶対値は国際会計基準（IFRS）財務ベース  
対前年比はCERベース（定義はA-1ページをご参照下さい）

# FRUZAQLAおよびADCETRISが成長を牽引



**2025年度 売上収益 551億円 (+14.6%成長、CERベース)**

- これまでに40カ国において承認取得または上市済み  
2025年度第4四半期にはフランスで保険償還を受け上市
- 主な成長要因として、転移性大腸がん（mCRC）における化学療法以外の新たな治療選択肢に対する需要に加え、3次治療以降での使用に対する腫瘍内科医の良好な治療経験の継続が挙げられる



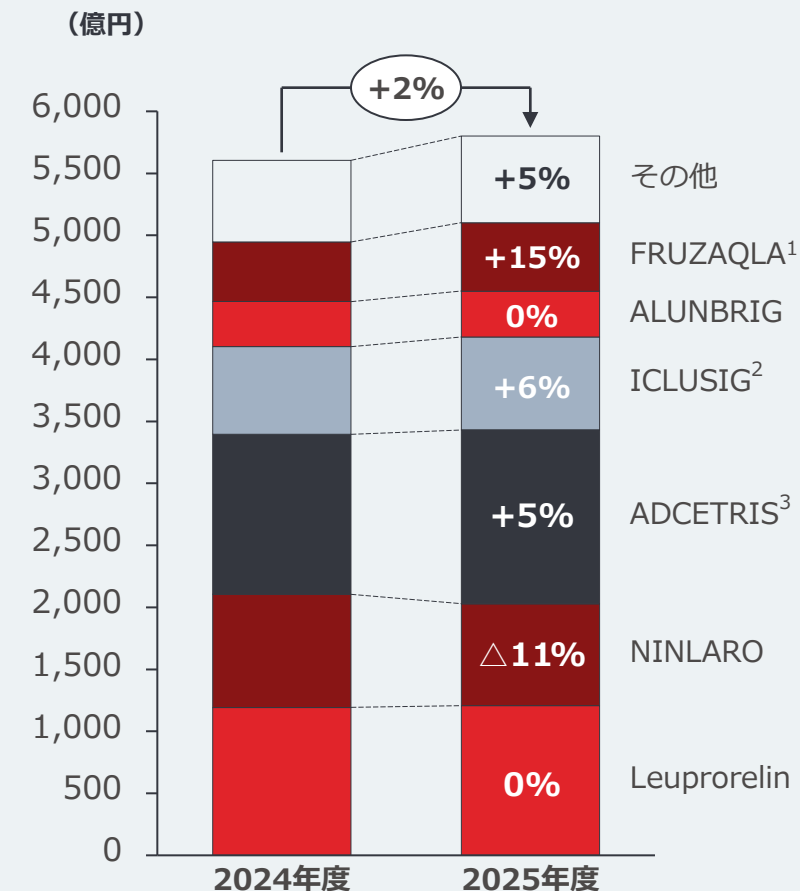
**2025年度 売上収益 1,402億円 (+5.3%成長、CERベース)**

- 主な成長ドライバーはホジキンリンパ腫（HL）の1次治療における継続的な使用拡大
- 新たに診断されたりリスク因子を有するIIb期およびIII期/IV期のホジキンリンパ腫の成人患者さんに対するADCETRISとECADDレジメン併用療法への欧州委員会（EC）による承認に加え、その他の21市場における承認取得（第4四半期は4市場）が引き続き成長に寄与

ECADD：エトボシド、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、ダカルバジン、デキサメタゾン  
疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

1. FRUZAQLAはHUTCHMED社より導入。当社は、全世界（中国本土、香港およびマカオを除く）で開発、上市、製造するための独占的ライセンス権を保有。
2. 当社は、米国、オーストラリア、カナダにおけるICLUSIGの販売権を保有。米国、オーストラリア、カナダ以外では、ICLUSIGは認可された4社のパートナーによって60を超える市場で販売。
3. ADCETRISはPfizer社より導入（2023年12月、Seagen社はPfizer社により買収）；北米外でのグローバル共同開発・販売権を保有。

## 2025年度 売上収益 オンコロジー ポートフォリオ



絶対値は国際会計基準（IFRS）財務ベース  
対前年比はCERベース（定義はA-1ページをご参照下さい）

# QDENGGAの需要は引き続き堅調

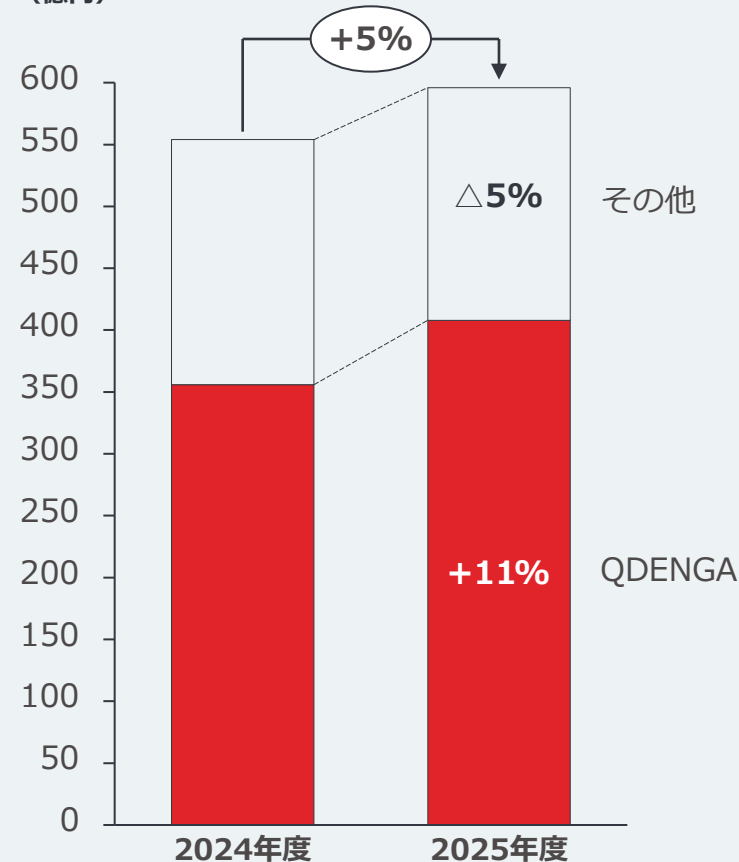


**2025年度 売上収益 408億円 (+10.7%成長、CERベース)**

- 2025年度第4四半期の業績は想定を下回る  
ブラジル保健省との2年契約の締結遅延により、数量の一部が2026年度へと期ずれした影響
- 2024年と比較し、デング熱シーズンは流行水準に至らず、QDENGGAの需要に影響を与えた
- 上市後の需要の伸びは、主にブラジル、アルゼンチン、ベトナムから生じており、国別の市場構成は以下の通り：
  - ベトナム：主に民間接種
  - アルゼンチン：主に公的接種
  - ブラジル：両セグメント（民間接種：約3分の1、公的接種：約3分の2）
- 30カ国以上で接種可能、40カ国以上で承認済み
  - 3カ国で政府もしくは地域単位の予防接種プログラムを通じて接種可能：インドネシア（2022年8月承認、2023年11月より接種可能）、ブラジル（2023年3月承認、2023年12月より接種可能）、アルゼンチン（2023年4月承認、2024年8月より接種可能）
- 重要な国際機関によるQDENGGAへの推奨が、認知度向上とアクセス拡大を後押し
  - World世界保健機関（WHO）がQDENGGAを事前認証ワクチンリストに追加
  - 4カ国でPAHO（Pan American Health Organization）のリボルピングファンドを通じて接種可能：ホンジュラス（2024年10月）、ペルー（2024年10月）、パラグアイ（2025年10月）およびコロンビア（2025年10月）
  - Gavi（Global Alliance for Vaccines and Immunization）の理事会は、アクセス拡大への大きな一歩となるデング熱ワクチンプログラムへの支援を承認
- 2026年度には2,100万回接種分の製造を計画  
2030年度までに年間1億回接種分を製造する計画は予定通り進捗

2025年度 売上収益  
**ワクチン ポートフォリオ**

(億円)



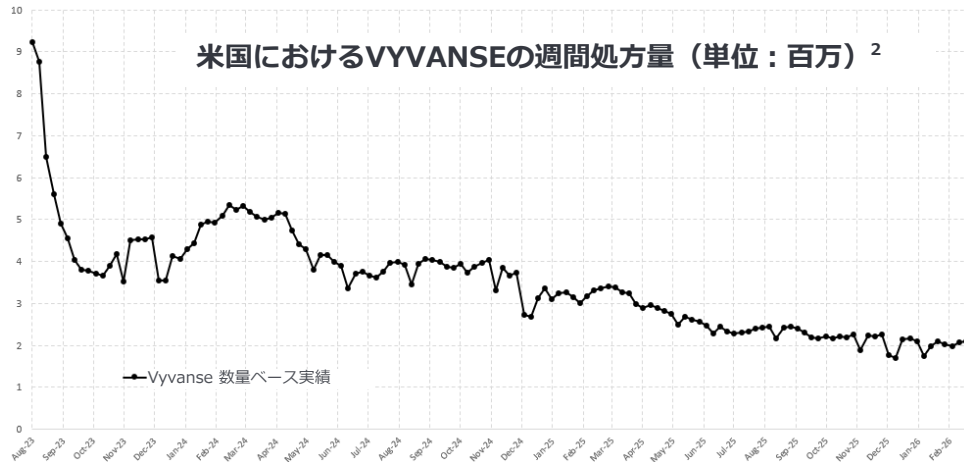
絶対値は国際会計基準（IFRS）財務ベース  
対前年比はCERベース（定義はA-1ページをご参照下さい）

# 2023年8月よりVYVANSEの米国における独占販売期間満了による影響を受ける



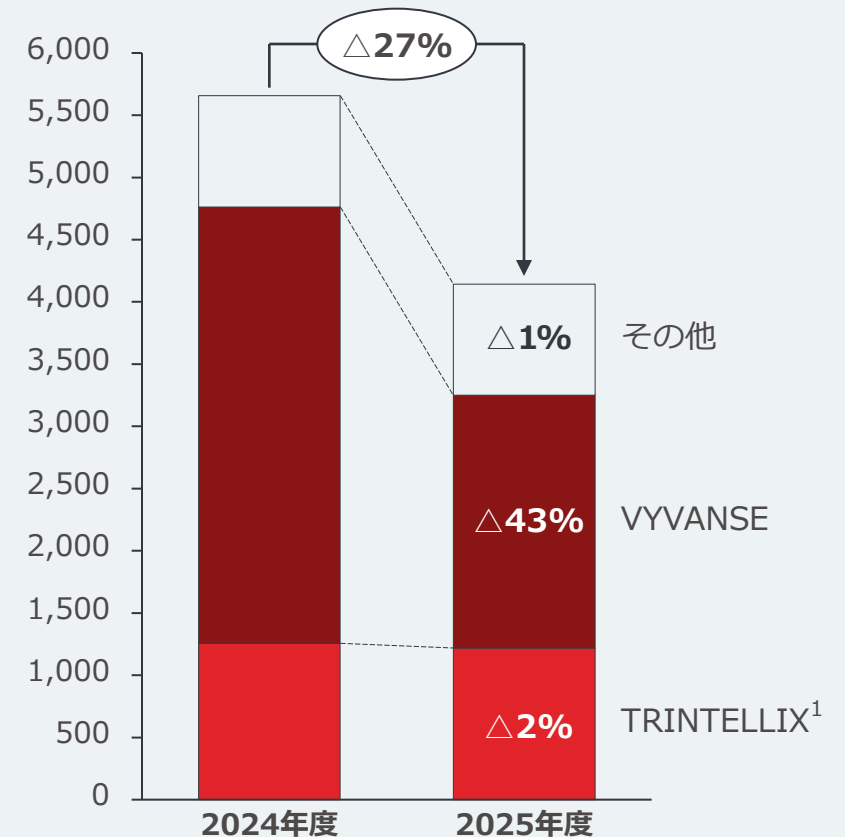
**2025年度 売上収益 2,032億円 (43.0%減少、CERベース)**

2025年度 売上収益  
ニューロサイエンス ポートフォリオ



- 米国における2025年度売上収益は、後発品の供給拡大に伴い63.3%減少 (CERベース)
- 米国以外の主要な市場において、これまでにVYVANSE/ELVANSEの独占販売期間満了の影響を受けた国はカナダ (2024年6月)、ブラジル (2024年7月) およびドイツ (2024年8月)

(億円)



**2025年度 売上収益 1,218億円 (1.9%減少、CERベース)**

- 米国の2025年度売上収益は3.8%減少 (CERベース)。主にメディケア・パートD再編と大手小売業者の在庫水準の変動による影響。5%の年次価格引き上げおよび需要が想定をやや上回ったことにより一部相殺
- 日本の2025年度売上収益は+14.0%成長となり力強い勢いが継続

1. TRINTELLIXはLundbeck社より導入；米国における販売権を当社が有し、日本では共同販売権を保有。  
2. IQVIA

絶対値は国際会計基準 (IFRS) 財務ベース  
対前年比はCERベース (定義はA-1ページをご参照下さい)

# 2025年度： 新規候補物質の重要な臨床第3相試験データの読み出しと適応拡大



主な承認 の可能性	ADCETRIS	ホジキンリンパ腫に対するフロントライン治療 (BrECADDレジメン)	欧州 承認	✓
	VONVENDI	小児フォン・ヴィレブランド病 (出血時および周術期の補充療法)	米国 承認	✓
	TAK-880 <sup>1</sup>	原発性免疫不全症候群に対する 低IgA含有免疫グロブリン製剤	米国 承認 欧州 承認	✓ ✓

主な ピボタル試験 読み出し	oveporexton	ナルコレプシータイプ1	臨床第3相試験 読み出し	✓
	zasocitinib	乾癬	臨床第3相試験 読み出し	✓
	mirvetuximab	プラチナ製剤抵抗性卵巣がん	ピボタル試験読み出し <sup>2</sup>	✓

✓ マイルストーン達成

1. TAK-880は、米国ではGAMMAGARD LIQUID ERCとして、欧州ではDEQSIGAとして承認取得  
2. 日本での申請に繋がる臨床第1/2相ピボタル試験

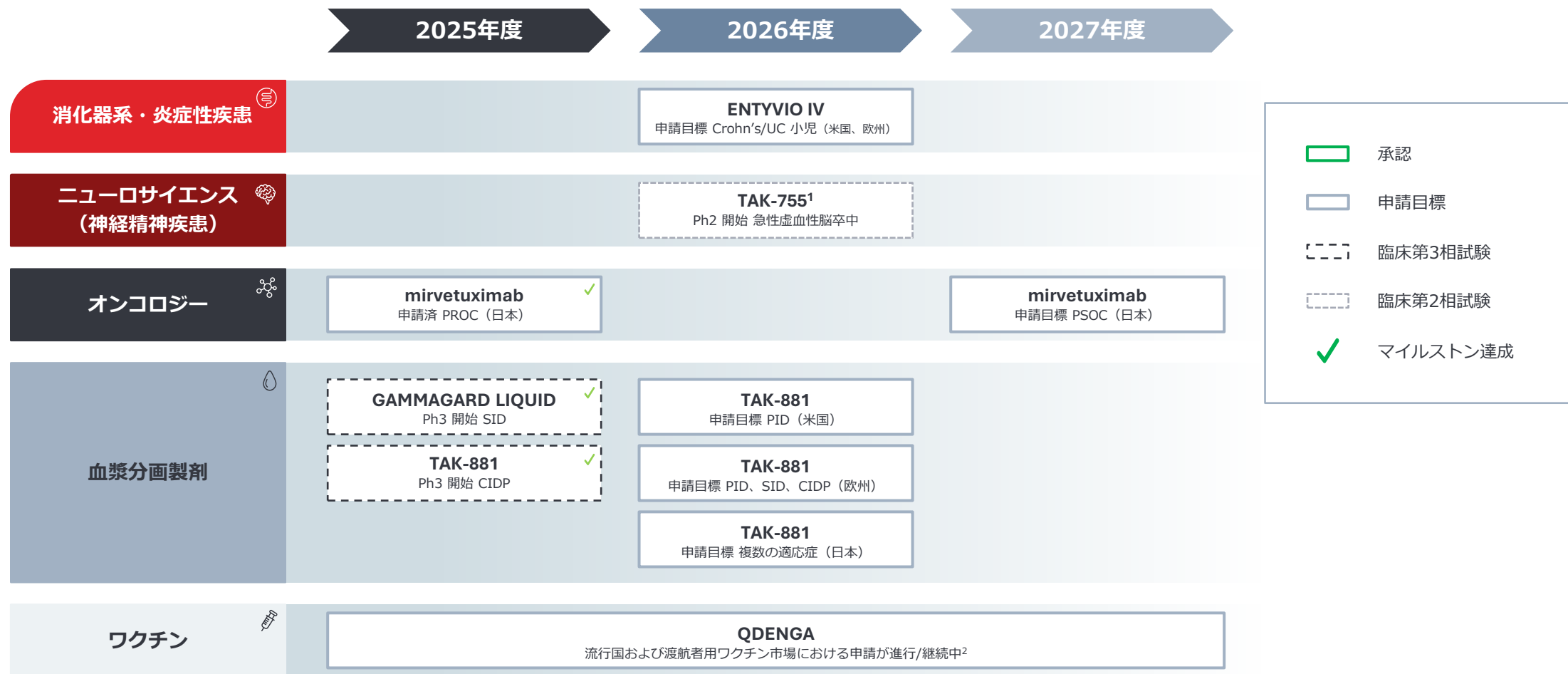
# 2026年度：重要な承認取得と臨床第3相試験データの読み出しの可能性



主な承認 の可能性	oveporexton	ナルコレプシータイプ1	米国 承認 日本 承認 中国 承認
	rusfertide	真性多血症	米国 承認
	ENTYVIO IV	クローン病（小児）	米国 承認
		潰瘍性大腸炎（小児）	米国 承認
	QDENGGA	デング熱ワクチン	インド 承認
mirvetuximab	プラチナ製剤抵抗性卵巣がん	日本 承認	
主な ピボタル試験 読み出し	TAK-881	原発性免疫不全症候群	臨床第3相試験 読み出し ✓

✓ マイルストーン達成

# ライフ・サイクル・マネジメントを通じ、既存ポートフォリオの価値を最大化



1. TAK-755はADAMTS13 (遺伝子組換え) の開発コード  
 2. QDengaはメキシコで承認取得 (2025年9月)

# 臨床開発パイプライン一覧表（フェーズ別）

臨床第1相試験（新規候補物質5品目）	臨床第2相試験（新規候補物質7品目 + LCM1件）	臨床第3相試験（新規候補物質8品目 + LCM5件）	申請（新規候補物質2品目 + LCM9件）
TAK-781   Primary Sclerosing Cholangitis	zasocitinib   Crohn's Disease	zasocitinib   Psoriasis	ADZYNMA   cTTP (CN) ★
TAK-495   Orexin2 Receptor Agonist	zasocitinib   Ulcerative Colitis	zasocitinib   Pediatric Psoriasis	oveporexton   NT1 (US, JP, CN) ★
TAK-168   Solid Tumors	zasocitinib   Vitiligo	zasocitinib   Psoriatic Arthritis	rusfertide   Polycythemia Vera (US) ★
TAK-188   Solid Tumors	zasocitinib   Hidradenitis Suppurativa	mezagitamab   IgA Nephropathy ★	ADCETRIS   FL HL BrECADD (EU) ✓
TAK-921   Solid Tumors ★	TAK-101   Celiac Disease	mezagitamab   ITP ★	mirvetuximab   PROC (JP)
	TAK-227   Celiac Disease	fazirsiran   AATD Liver Disease ★	DEQSIGA TAK-880   IgG - Low IgA (EU) ✓
	TAK-360   Idiopathic Hypersomnia ★	ENTYVIO IV   Pediatric UC/Crohn's	GAMMAGARD ERC TAK-880   IgG - Low IgA (US) ✓
	TAK-360   Narcolepsy Type 2 ★	ENTYVIO SC   Pediatric UC/Crohn's	Glovenin-I 10% TAK-339   AE (JP) ★
	TAK-755   Acute Ischemic Stroke <sup>1</sup>	oveporexton   NT1 (EU) ★	Glovenin-I 10% TAK-339   Multiple Ind (JP) ★ ✓
	elritercept   AA Myelofibrosis ★	elritercept   2L AA MDS ★	Glovenin-I 10% TAK-961   AE (JP) ★
	TAK-928   Solid Tumors	TAK-921   3L+ Gastric Cancer (JP) ★	Glovenin-I 10% TAK-961   Multiple Ind (JP) ★ ✓
	TAK-411   CIDP	TAK-928   2L sqNSCLC	HYQVIA   CIDP, MMN (JP) ✓
		mirvetuximab   PSOC (JP)	HyHub & HyHub Duo   AVA Device (US, EU, JP) ✓
		TAK-881   PID	
		TAK-881   CIDP	
		Prothromplex   DOAC Reversal (US)	
		GAMMAGARD   SID	
IBI3001   Solid Tumors <sup>2</sup>	ACI-24.060   Alzheimer's Disease <sup>3</sup>	olverembatinib   CP-CML <sup>4</sup>	

<table border="1"> <tr> <td>消化器系・炎症性疾患</td> <td>血漿分画製剤</td> </tr> <tr> <td>ニューロサイエンス（神経精神疾患）</td> <td>オプション契約<sup>5</sup></td> </tr> <tr> <td>オンコロジー</td> <td></td> </tr> </table>	消化器系・炎症性疾患	血漿分画製剤	ニューロサイエンス（神経精神疾患）	オプション契約 <sup>5</sup>	オンコロジー		<p>★ 希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）指定の可能性（いずれかの地域/適応症）</p> <p>✓ 承認済み</p>	<p>ライフ・サイクル・マネジメント</p> <p>新規候補物質</p>
消化器系・炎症性疾患	血漿分画製剤							
ニューロサイエンス（神経精神疾患）	オプション契約 <sup>5</sup>							
オンコロジー								

1. TAK-755の急性虚血性脳卒中を対象とした臨床第2相試験は被験者登録中。  
 2. IBI3001は参考情報としてのみ掲載。特定の独占的ライセンスを取得するためのオプション権を当社が行使（規制当局による承認を含む慣習的な条件を満たす必要がある）するまでの間、Innovent Biologics社は本候補物質を所有し単独で臨床開発を実施。  
 3. ACI-24.060は参考情報としてのみ掲載。特定の独占的ライセンスを獲得するためのオプション権を当社が行使（規制当局による承認を含む慣習的な条件を満たす必要がある）するまでの間、AC Immune社は本候補物質を所有し単独で臨床開発を実施。  
 4. Oolverembatinib/HQP-1351は参考情報としてのみ掲載。特定の独占的ライセンスを獲得するためのオプション権を当社が行使（規制当局による承認を含む慣習的な条件を満たす必要がある）するまでの間、Ascentage Pharma社は本候補物質を所有し単独で臨床開発を実施。  
 5. オプション契約：当社が臨床開発かつ/または商業化を将来行う可能性がある契約上の権利を保有するパイプライン。

# 2025年度におけるデータに基づく進展：最も有望なプログラムに注力

新規承認	
ADCETRIS   FL HL BrECADD (EU)	
DEQSIGA TAK-880   IgG - Low IgA (EU)	
GAMMAGARD ERC TAK-880   IgG - Low IgA (US)	
Glovenin-I 10% TAK-339   Multiple Ind (JP)	★
Glovenin-I 10% TAK-961   Multiple Ind (JP)	★
HyHub & HyHub Duo   AVA Device (US, EU, JP)	
HYQVIA   CIDP, MMN (JP)	
VONVENDI   Ped vWD OD & Surgery (US)	★
VONVENDI   Ped vWD OD (EU)	★
VONVENDI   Ped vWD OD & Surgery (JP)	★

新規申請	
oveporexton   NT1 (US, JP, CN)	★
rusfertide   Polycythemia Vera (US)	★
mirvetuximab   PROC (JP)	
Glovenin-I 10% TAK-339   AE (JP)	★
Glovenin-I 10% TAK-961   AE (JP)	★
ADYNOVATE   HemA (CN)	★

臨床第1相試験（追加品目）	
TAK-781   Primary Sclerosing Cholangitis	
TAK-495   Orexin2 Receptor Agonist	
TAK-168   Solid Tumors	
TAK-188   Solid Tumors	
TAK-921   Solid Tumors	★

臨床第2相試験（追加品目）	
zasocitinib   Vitiligo	
zasocitinib   Hidradenitis Suppurativa	
TAK-360   NT2	
TAK-755   Acute Ischemic Stroke <sup>1</sup>	
TAK-928   Solid Tumors	
TAK-411   CIDP	

臨床第3相試験（追加品目）	
zasocitinib   Pediatric Psoriasis	
mezagitamab   IgA Nephropathy	★
TAK-921   3L+ Gastric Cancer (JP)	★
TAK-928   2L sqNSCLC	
Elritercept   2L MDS	★
GAMMAGARD Liquid   SID	

臨床第1相試験（削除品目）	
TAK-004   Nausea & Vomiting	
TAK-012   Relapsed / Refractory AML	

臨床第2相試験（削除品目）	
ADZYNMA   iTTP	
TAK-341   Multiple System Atrophy	
TAK-594   Frontotemporal Dementia	
TAK-925   Respiratory	

臨床第3相試験（削除品目）	
Glovenin-I 5% TAK-961   AE	
QDENGGA Dengue Vaccine Booster <sup>2</sup>	

消化器系・炎症性疾患	血漿分画製剤
ニューロサイエンス（神経精神疾患）	その他の希少疾患
オンコロジー	

- ★ 希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）指定の可能性（いずれかの地域/適応症）
- ✓ 承認済み

- ライフ・サイクル・マネジメント
- 新規候補物質

1. TAK-755の急性虚血性脳卒中を対象とした臨床第2相試験は被験者登録中。  
 2. 本結果により、QDENGGAの7年間にわたる長期安全性プロファイルおよび2回接種スケジュールの妥当性が再確認された。  
 全てのタイムラインは2026年5月13日時点におけるおおよその予測で、変更される場合があります。表中の研究開発マイルストーンは包括的なものではありません。疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

	臨床第3相試験	臨床第3b/4相試験	論文掲載	承認済
潰瘍性大腸炎	<p>ENTYVIO® IV 小児適応 (グローバル)</p> <p>ENTYVIO® SC 小児適応 (グローバル)</p>	<p>ENTYVIO® IV (VERDICT) (グローバル) <sup>3, 4</sup></p> <p>ENTYVIO® IV (EXIGEM) ENT + tof (米国、カナダ) <sup>3</sup></p> <p>ENTYVIO® IV/SC (PANORAMA) (米国) <sup>3</sup></p>	<p>ENTYVIO® IV (VARSITY) ENT vs. ada<sup>1</sup></p>	<p>ENTYVIO® IV (グローバル)</p> <p>ENTYVIO® SC (米国、欧州、日本)</p>
クローン病	<p>ENTYVIO® IV 小児適応 (グローバル)</p> <p>ENTYVIO® SC 小児適応 (グローバル)</p>	<p>ENTYVIO® IV (EXPLORER 2) ENT + ada or ENT + ust (米国、カナダ) <sup>3</sup></p> <p>ENTYVIO® IV (VICTRIVA) ENT + upa (グローバル) <sup>3</sup></p> <p>ENTYVIO® (VOICE) ENT or ust (米国、カナダ) <sup>3, 4</sup></p> <p>ENTYVIO® IV (VECTORS) (グローバル) <sup>3, 4</sup></p> <p>ENTYVIO® IV/SC (PANORAMA) (米国) <sup>3</sup></p>		<p>ENTYVIO® IV (グローバル)</p> <p>ENTYVIO® SC (米国、欧州、日本)</p>
回腸囊炎	<p>ENTYVIO® IV 小児適応 (欧州)</p>			<p>ENTYVIO® IV (欧州)</p>
移植片対宿主病			<p>ENTYVIO® IV (グローバル) <sup>2</sup> ★</p>	

1. Sands BE et al. N Engl J Med 2019;381:1215-26.  
 2. Chen, YB., Mohty, M., Zeiser, R. et al. Nat Med 30, 2277-2287 (2024).  
 3. 適応拡大などを目的としたデザインの臨床試験ではない  
 4. 当社の協力を得て、Alimentiv社が主導する共同研究

ENT : ENTYVIO  
 Tof : tofacitinib (トファシチニブ)  
 Ada : adalimumab (アダリムマブ)  
 Ust : ustekinumab (ウステキヌマブ)  
 Upa : upadacitinib (ウパダシチニブ)













承認済

論文掲載

継続中の試験または申請済

★ 希少疾病用医薬品 (オーファンドラッグ) 指定の可能性

# Zasocitinib (TAK-279) は経口薬がもつ可能性を再定義しうる 幅広い適応症を対象とした臨床試験が進行中

Latitude 	臨床第2相試験 開始	臨床第2相試験 データ読み出し	臨床第3相試験 開始	臨床第3相試験 データ読み出し	申請
乾癬		2023年3月 	2023年11月 	2025年12月 	2026年度目標
乾癬 Deucravacitinibとの 直接比較試験			2025年7月 	2026年度目標	
乾癬 小児			2025年12月 		
乾癬性関節炎		2023年9月 	2024年3月 		2027年度目標
クローン病	2024年3月 (臨床第2b相試験) 	2026年度目標			
潰瘍性大腸炎	2024年6月 (臨床第2b相試験) 	2026年度目標			
白斑	2025年12月 (臨床第2b相試験) 	2027年度目標			
化膿性汗腺炎	2026年2月 (臨床第2a相試験) 	2027年度目標			

# 略語の用語集

## 地域に関する略語:

CN: 中国; EU: 欧州; JP: 日本; UK: 英国; US: 米国

<b>1L</b>	first line (1次治療)
<b>2L</b>	second line (2次治療)
<b>3L</b>	third line (3次治療)
<b>AA</b>	anemia-associated (～に伴う貧血)
<b>AATD</b>	$\alpha$ 1-antitrypsin deficiency ( $\alpha$ 1アンチトリプシン欠乏症)
<b>ADAMTS13</b>	a disintegrin-like and metalloproteinase with a thrombospondin type 1 motifs 13 (トロンボスポンジン1型モチーフ13を有するディスインテグリンおよびメタロプロテイナーゼ)
<b>ADC</b>	antibody-drug conjugate (抗体薬物複合体)
<b>AE</b>	adverse event (有害事象)
<b>AI</b>	artificial intelligence (人工知能)
<b>AML</b>	acute myeloid leukemia (急性骨髄性白血病)
<b>AMR</b>	antibody-mediated rejection (抗体関連型拒絶)
<b>ASN</b>	American Society of Nephrology (米国腎臓学会)
<b>AVA</b>	Advanced Vial Access
<b>BID</b>	bis in die (1日2回投与)
<b>BSA</b>	body surface area (体表面積に占める乾癬病変の割合)
<b>BTD</b>	breakthrough therapy designation (画期的新薬指定)
<b>CI</b>	confidence interval (信頼区間)
<b>CIDP</b>	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy (慢性炎症性脱髄性多発根神経炎)
<b>CLDN18.2</b>	claudin 18.2
<b>CML</b>	chronic myeloid leukemia (慢性骨髄性白血病)
<b>CRC</b>	colorectal cancer (大腸がん)
<b>cTTP</b>	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura (先天性血栓性血小板減少性紫斑病)
<b>CY</b>	calendar year (暦年)
<b>DLQI</b>	Dermatology Life Quality Index (皮膚疾患が患者さんのQOLに与える影響を評価する指標)
<b>DOAC</b>	direct oral anti-coagulation (直接経口抗凝固薬)
<b>EMA</b>	European Medicines Agency (欧州医薬品庁)
<b>FDA</b>	U.S. Food & Drug Administration (米国食品医薬品局)
<b>FL</b>	front line (フロントライン適応)
<b>fSCIG</b>	facilitated Subcutaneous Immunoglobulin (促進型皮下注用免疫グロブリン製剤)
<b>FSI</b>	first subject in (最初の患者登録)
<b>FY</b>	fiscal year (年度)

<b>GC</b>	gastric cancer (胃がん)
<b>HemA</b>	hemophilia A (血友病A)
<b>HL</b>	Hodgkin lymphoma (ホジキンリンパ腫)
<b>HS</b>	hidradenitis suppurativa (化膿性汗腺炎)
<b>HtH</b>	head-to-head (直接比較)
<b>IBD</b>	inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患)
<b>IgA</b>	immunoglobulin A (免疫グロブリンA)
<b>IgAN</b>	immunoglobulin A nephropathy (IgA腎症)
<b>IgG</b>	immunoglobulin G (免疫グロブリンG)
<b>IgG1 Fc</b>	crystallizable fragment of IgG (IgGの結晶化可能フラグメント)
<b>IH</b>	idiopathic hypersomnia (特発性過眠症)
<b>IL-2/12/17/23</b>	interleukin 2/12/17/23 (インターロイキン2/12/17/23)
<b>Ind</b>	Indication(s) (適応症)
<b>IND</b>	investigational new drug (治験薬)
<b>IO</b>	immuno-oncology (免疫腫瘍学)
<b>iTTP</b>	immune thrombotic thrombocytopenic purpura (免疫性血栓性血小板減少性紫斑病)
<b>IV</b>	intravenous (静脈投与)
<b>JAK</b>	Janus kinase (ヤヌスキナーゼ)
<b>JPY</b>	Japanese Yen (日本円)
<b>LCM</b>	lifecycle management (ライフ・サイクル・マネジメント)
<b>MDS</b>	myelodysplastic syndrome (骨髄異形成症候群)
<b>MF</b>	myelofibrosis (骨髄線維症)
<b>MMN</b>	multifocal motor neuropathy (多巣性運動ニューロパシー)
<b>MSS CRC</b>	microsatellite-stable colorectal cancer (マイクロサテライト安定性大腸がん)
<b>NDA</b>	new drug application (新薬承認申請)
<b>NME</b>	new molecular entity (新規候補物質)
<b>NMPA</b>	(China's) National Medical Products Administration (中国国家薬品监督管理局)
<b>NRI</b>	nonresponder imputation (ノンレスポナー補完)
<b>NSCLC</b>	non-small cell lung cancer (非小細胞肺癌)
<b>nsqNSCLC</b>	non-squamous non-small cell lung cancer (非扁平上皮非小細胞肺癌)
<b>NT1 or 2</b>	narcolepsy type 1 (ナルコレプシータイプ1) or narcolepsy type 2 (ナルコレプシータイプ2)

<b>OD</b>	on demand (出血時補充療法)
<b>OX2R</b>	orexin 2 receptor (オレキシン2受容体)
<b>PASI</b>	psoriasis area and severity index (乾癬の重症度を表す指標)
<b>PD-1</b>	programmed cell death protein 1 (プログラム細胞死タンパク質1)
<b>PDAC</b>	pancreatic ductal adenocarcinoma (浸潤性膵管癌)
<b>Ph1, Ph2, Ph3</b>	phase 1, 2, 3 (臨床第1相、第2相、第3相試験)
<b>PID</b>	primary immunodeficiency (原発性免疫不全)
<b>PMDA</b>	Japan's Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (医薬品医療機器総合機構)
<b>POC</b>	proof of concept (概念実証)
<b>PRIME</b>	Priority medicines scheme by EMA (欧州医薬品庁による優先審査スキーム)
<b>PROC</b>	platinum-resistant ovarian cancer (プラチナ製剤抵抗性卵巣がん)
<b>PsA</b>	psoriatic arthritis (乾癬性関節炎)
<b>PSC</b>	primary sclerosing cholangitis (原発性硬化性胆管炎)
<b>PsO</b>	psoriasis (乾癬)
<b>PSOC</b>	platinum-sensitive ovarian cancer (プラチナ製剤感受性卵巣がん)
<b>PV</b>	polycythemia vera (真性多血症)
<b>R&amp;D</b>	Research and Development (研究開発)
<b>SC</b>	subcutaneous formulation (皮下投与製剤)
<b>SCLC</b>	small-cell lung cancer (小細胞肺癌)
<b>SID</b>	secondary immunodeficiency (続発性免疫不全)
<b>siRNA</b>	small interfering RNA (低分子干渉リボ核酸)
<b>SOC</b>	standard of care (標準治療)
<b>sPGA</b>	static Physician's Global Assessment (医師による静的総合評価)
<b>sqNSCLC</b>	squamous non-small cell lung cancer (扁平上皮非小細胞肺癌)
<b>TYK2</b>	tyrosine kinase 2 (チロシンキナーゼ2)
<b>UC</b>	ulcerative colitis (潰瘍性大腸炎)
<b>USD</b>	US dollar (米ドル)
<b>vWD</b>	von Willebrand disease (フォン・ヴィレブランド病)
<b>wk(s)</b>	week(s) (週)
<b>WW</b>	worldwide (全世界)

# 財務補足資料



## 国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標の定義

国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明

A-1

## 調整表およびその他の財務情報

2025年度 財務ベース業績（CERベース増減率を含む）

A-4

2025年度第4四半期（1-3月）財務ベース業績（CERベース増減率を含む）

A-5

2025年度 Core業績（CERベース増減率を含む）

A-6

2025年度第4四半期（1-3月）Core業績（CERベース増減率を含む）

A-7

2025年度 財務ベースからCoreへの調整表

A-8

2025年度第4四半期（1-3月）財務ベースからCoreへの調整表

A-9

2024年度 財務ベースからCoreへの調整表

A-10

2024年度第4四半期（1-3月）財務ベースからCoreへの調整表

A-11

2025年度 調整後フリー・キャッシュ・フロー

A-12

2025年度 調整後純有利子負債/調整後EBITDA

A-13

2024年度 調整後純有利子負債/調整後EBITDA

A-14

2025年度 当期利益から調整後EBITDAへの調整

A-15

2025年度 資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失

A-16

2025年度実績 対公表予想（2026年1月）

A-17

2026年度業績予想（詳細）

A-18

2026年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表

A-19

2026年度前提為替レートおよび通期予想に対する為替感応度

A-20

## Core財務指標

当社グループのCore売上収益、Core営業利益、Core当期利益（親会社の所有者帰属分）、Core EPSをはじめとするCore財務指標は、売却に伴う収益、製品（仕掛研究開発品を含む）に係る無形資産償却費及び減損損失、その他、非定常的な事象に基づく影響、企業結合会計影響や買収関連費用など、当社グループの中核事業の本質的な業績に関連しない事象による影響を控除しています。**Core売上収益**は、財務ベースの売上収益から、当社グループの中核事業の本質的な業績に関連しない売上収益に係る影響（主に、事業売却および清算に係る売上収益および関連する調整）を控除して算出します。**Core営業利益**は、財務ベースの営業利益から、その他の営業収益及びその他の営業費用、製品（仕掛研究開発品を含む）に係る無形資産償却費及び減損損失、その他、非資金項目または当社グループの中核事業の本質的な業績に関連しない事象による影響を控除して算出します。**Core当期利益（親会社の所有者帰属分）**は、財務ベースの当期利益（親会社の所有者帰属分）から、Core営業利益の算出において控除された項目、および特別、非定常的な事象に基づく影響、または当社グループの中核事業の本質的な業績に関連しない事象による影響を控除し、これらの調整項目に係る税金影響を控除して算出します。これらの調整項目には、条件付対価に係る公正価値変動（時間的価値の変動を含む）影響などが含まれます。**Core EPS**は、Core当期利益（親会社の所有者帰属分）を報告期間の自己株式控除後の平均発行済株式総数で除して算出します。

当社グループがCore財務指標を表示する理由は、これらの指標が、当社グループの中核事業の本質的な業績に関連しない事象による影響を控除するものであり、当社グループ事業の本質的な業績を理解していただくにあたり有用であると考えているためです。控除される項目には、(i) 前年度から著しく変動する項目、もしくは毎年度発生するものではない項目、または(ii)当社グループの中核事業の本質的な業績の変動とはほぼ相関関係がないと認められる項目が含まれます。同様の指標は、同業他社においても頻繁に使用されていると認識しており、本指標を表示することは、投資家が当社グループの業績を過年度の業績と比較される際だけではなく、同業他社と類似の基準に基づき比較される際にも有用になると考えています。また、当社グループがCore財務指標を表示する理由は、これらの指標が予算の策定や報酬の設定（CEOおよびCFOのインセンティブ報酬を含む、当社グループの短期インセンティブならびに長期インセンティブ報酬プログラムに係る一定の目標はCore財務指標の結果に関連して設定）に用いられているためです。

## CER (Constant Exchange Rate: 恒常為替レート) ベースの増減

**CER ベースの増減**は、当期の国際会計基準（IFRS）に準拠した業績またはCore財務指標（Non-IFRS）について、前年同期に適用した為替レートをを用いて換算することにより、前年同期との比較において為替影響を控除するものです。ただし、超インフレが発生し、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」が適用されている子会社の業績についてはCERベースの増減調整は行わないこととし、これら子会社に係るCERベースの増減はIAS第29号に基づいて算出しています。

当社グループがCERベースの増減を表示する理由は、変動する為替レートが当社グループの事業に与える影響を踏まえ、為替影響がなかった場合の経営成績の増減について投資家に理解していただくにあたり有用であると考えているためです。CERベースの増減は、当社グループの経営陣が経営成績を評価するに際して使用する主な指標になっています。また、製薬業界における各社が為替影響を調整した同様の業績指標を頻繁に用いているため、証券アナリスト、投資家その他の関係者が各社の経営成績を評価するに際しても、本指標が有用であると考えています。

ただし、CERベースの増減の有用性には、一例として次の限界があります。例えば、CERベースの増減は、前年度においてIFRSに準拠した業績を算定するために用いた為替レートと同一の為替レートをを用いますが、そのことは必ずしも、当年度の取引が前年度と同一の為替レートで実施され得た、あるいは計上され得たことを示すものではありません。また、類似の名称の指標を用いている同業他社が、当社グループとは異なる方法で指標を定義し、算定している可能性があるため、そのような指標との比較可能性に欠け得るものです。従って、CERベースの増減はIFRSに準拠して作成、表示された業績と切り離して考慮してはならず、また、これらの代替と捉えてはならないものです。

## フリー・キャッシュ・フローおよび調整後フリー・キャッシュ・フロー

当社グループの**フリー・キャッシュ・フロー**は、営業活動によるキャッシュ・フローから有形固定資産の取得による支出を控除したものです。**調整後フリー・キャッシュ・フロー**は、営業活動によるキャッシュ・フローから、有形固定資産の取得による支出、無形資産の取得による支出、投資の取得による支出（公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資の取得による支出の控除後）、関連会社株式の取得による支出、事業の取得による支出（取得した現金及び現金同等物の純額の控除後）およびそれらに実質的に関連または類似していると見做されるその他の支出を控除した上で、有形固定資産の売却による収入、投資の売却・償還による収入（公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資の売却・償還による収入の控除後）、関連会社株式の売却による収入、事業の売却による収入（処分した現金及び現金同等物の純額の控除後）を加味し、さらに、当社グループが即時的または一般的な業務用に使用できないいかなるその他の現金の支出入を調整し、算出しています。

当社グループがフリー・キャッシュ・フローおよび調整後フリー・キャッシュ・フローを表示する理由は、証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻繁に用いられる流動性についての同様の指標として、これらの指標が投資家にとって有用であると考えているためです。調整後フリー・キャッシュ・フローは、流動性要件を満たす能力を測り、資本配分方針をサポートする指標として流動性及びキャッシュ・フローの評価を行うに際して、当社グループの経営陣によっても使用されています。また、フリー・キャッシュ・フローおよび調整後フリー・キャッシュ・フローは、投資家が、当社グループの戦略的な買収や事業の売却がどのようにキャッシュ・フローや流動性に貢献するかを理解される上で有用であると考えています。

投資家にとってのフリー・キャッシュ・フローおよび調整後フリー・キャッシュ・フローの有用性には、一例として次の限界があります。例えば、(i) 同業他社を含め、用いられている類似の名称の指標との比較可能性に欠け得るものです、(ii) 当社グループの、資本の使用又は配分を必要とする現在及び将来の契約上その他のコミットメントの影響は反映されていません、(iii) 投資の売却・償還による収入、事業の売却による収入（処分した現金及び現金同等物の純額の控除後）は、中核である継続的な事業からの収入を示すものではありません。フリー・キャッシュ・フローおよび調整後フリー・キャッシュ・フローは、IFRSに基づく指標である営業活動によるキャッシュ・フロー及びその他の流動性指標と切り離して考慮してはならず、また、これらの代替と捉えてはならないものです。IFRSに準拠した指標の中で、フリー・キャッシュ・フローおよび調整後フリー・キャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローが最も類似します。

## EBITDAおよび調整後EBITDA

当社グループにおいて、**EBITDA**は、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、ならびに純支払利息控除前の連結当期利益を指します。また、**調整後EBITDA**は、減損損失、その他の営業収益及びその他の営業費用（減価償却費及び償却費ならびに減損損失を除く）、金融収益及び費用（純支払利息を除く）、持分法による投資損益、株式報酬に係る非資金性の費用を含むその他の非資金性項目、および売却した製品に係るEBITDA、企業結合会計影響や買収関連費用などの当社グループの中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

当社グループがEBITDA及び調整後EBITDAを表示する理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行う際に頻繁に用いられるものであり、投資家にとって有用であると考えているためです。当社グループは、調整後EBITDAを主に財務レバレッジをモニターするために使用しています。また、調整後EBITDAは、継続的な事業に関連しない特定の事象（変化に富み予測が困難である一方で、経営成績に重大な影響を与える可能性があり、一定期間にわたる業績を一貫性をもって評価することが困難な事象）から生じる不透明さを排除することから、投資家にとって、事業の動向を把握するに際して有用な指標であると考えています。

投資家にとってのEBITDA及び調整後EBITDAの有用性には、一例として次の限界があります。例えば、(i) 同業他社を含め、用いられている類似の指標との比較可能性に欠け得るものです。また、(ii) 企業買収や無形資産の償却による影響などを含む、当社グループの業績、価値又は将来見通しの評価において重要とみなされる可能性のある財務情報や事象が除外されています、(iii) 将来にわたって継続的に発生する可能性のある項目又は項目の種類が除外されています、(iv) 投資家が当社グループの業績を理解する上で重要とみなす可能性のあるすべての項目が含まれていない、又は、重要とみなさないであろうすべての項目が除外されていない場合があります。EBITDAおよび調整後EBITDAは、IFRSに準拠した指標である営業利益、当期利益、その他の業績指標と切り離して考慮してはならず、また、これらの代替と捉えてはならないものです。IFRSに準拠した指標の中で、EBITDAおよび調整後EBITDAは、当期利益が最も類似します。

## 純有利子負債および調整後純有利子負債

当社グループは、純有利子負債を連結財政状態計算書上の社債及び借入金の簿価に現金及び現金同等物のみを調整したものと定義しており、当社グループの調整後純有利子負債は、次のとおり算出しています。まず、連結財政状態計算書に記載されている社債及び借入金の流動部分と非流動部分合計を計算します。その上で、(i) 当四半期期首時点に残存する外貨建て負債を直近12ヶ月の期中平均レートを用いて換算し、当四半期中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については対応するスポットレートを用いて換算し、当社グループの経営陣が当社グループのレバレッジをモニターするために使用する方法論を反映しています。また、(ii) 当社グループの劣後特約付きハイブリッド債について、その株式に似た特徴を踏まえ、S&Pグローバル・レーティング・ジャパンの格付手法に基づきエクイティクレジットを適用しています。この数字から、ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関係して当社が第三者に代わり一時的に保有している現金を除いた現金及び現金同等物、およびその他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を控除し、調整後純有利子負債を算出しています。

当社グループが、純有利子負債および調整後純有利子負債を表示する理由は、当社グループの経営陣が、当社グループの現金及び現金同等物控除後の負債をモニター及び分析するためにこれらの指標を使用し、また当社グループのレバレッジをモニターするために本指標を調整後EBITDAと併せて使用しており、投資家にとって有用であると考えているためです（なお、調整後純有利子負債および調整後純有利子負債/調整後EBITDA倍率は、当社グループの流動性の指標を表すものではないことにご留意ください）。また、負債についての同様の指標が、証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻繁に用いられるものであると考えています。特に、Shire社買収に伴い、投資家、アナリストおよび格付機関は、当社グループの（調整後純有利子負債/調整後EBITDA倍率で表される）財務レバレッジを綿密にモニターしています。格付機関が本指標を特に重視していることから、これらの情報は、当社グループの財務レバレッジだけではなく、格付機関が当社グループの信用力評価にあたって財務レバレッジの水準をどのように評価しているかについて、投資家が理解していただくに当たり有用であると考えています。そのため、後述のとおり、当社グループは、調整後純有利子負債を調整して、格付機関が一部の劣後債に適用している「エクイティクレジット」を反映しています（ただし、IFRS上、当該債務は資本として取り扱われません）。

調整後純有利子負債の有用性には、一例として次の限界があります。例えば、(i) 同業他社を含め、用いられている類似の指標との比較可能性に欠け得るものです、(ii) 当社グループの負債に係る利息の金額を反映していません、(iii) 負債の早期返済又は償還に係る制限を反映していません、(iv) 当社グループが現金同等物を現金に換金する際に、現金をある通貨から他の通貨に換金する際に、又は当社グループ内で現金を移動する際に係る手数料や費用を反映していません、(v) 有利子負債には、資金調達の契約と整合性のある平均為替レートを適用・調整していますが、これは当社グループがある通貨を他の通貨に換金することができる実際の為替レートを反映していません、(vi) 当社グループの劣後債はIFRS上資本として取り扱われないものの、エクイティクレジットを反映しています。当該調整は、合理的で、投資家にとって有用な調整であると考えています。調整後純有利子負債は、IFRSに基づく指標である社債及び借入金、又はその他の負債指標と切り離して考慮してはならず、また、これらの代替と捉えてはならないものです。IFRSに準拠した指標の中で、純有利子負債は、社債及び借入金が最も類似します。

## 便宜的な米ドル換算

財務補足資料における一部日本円表示の米ドルへの換算は、読者に対して便宜的に表示するためのものであり、ニューヨーク連邦準備銀行によって認証されている2026年3月31日時点の換算レート「Noon Buying Rate : 1米ドル159.08円」で換算しています。便宜的な米ドル換算に用いられている換算レートおよび方法は、連結財務諸表の作成で用いられた国際会計基準（IFRS）に準拠した換算レートおよび方法とは異なります。また、これらの米ドル換算は、円貨額が上記もしくはそれ以外の換算レートを用いて米ドルへ転換できるということを意味するものではありません。

## 2025年度 財務ベース業績 (CERベース増減率を含む)



(億円、EPS以外)	2024年度	2025年度	AERベース		CERベース	(百万米ドル、EPS以外) 2025年度 便宜的な米ドル換算
			増減額	増減率	増減率	
売上収益	45,816	45,057	△758	△1.7 %	△2.7 %	28,324
売上原価	△15,802	△15,716	86	0.5 %	1.9 %	△9,879
売上総利益	30,013	29,341	△672	△2.2 %	△3.1 %	18,444
対売上収益比率	65.5 %	65.1 %		△0.4 pp	△0.3 pp	65.1 %
販売費及び一般管理費	△11,048	△10,842	206	1.9 %	2.5 %	△6,816
研究開発費	△7,302	△6,759	543	7.4 %	7.0 %	△4,249
製品に係る無形資産償却費	△5,482	△5,043	439	8.0 %	7.7 %	△3,170
製品 <sup>(注)</sup> に係る無形資産減損損失	△950	△1,293	△342	△36.0 %	△33.3 %	△813
その他の営業収益	262	247	△15	△5.6 %	△4.4 %	156
その他の営業費用	△2,067	△1,564	503	24.3 %	25.8 %	△983
営業利益	3,426	4,088	662	19.3 %	14.5 %	2,570
対売上収益比率	7.5 %	9.1 %		1.6 pp	1.3 pp	9.1 %
金融収益	465	2,112	1,646	353.7 %	353.8 %	1,327
金融費用	△2,101	△3,576	△1,475	△70.2 %	△72.5 %	△2,248
持分法による投資損益	△40	△22	18	45.4 %	52.9 %	△14
税引前当期利益	1,751	2,602	851	48.6 %	36.6 %	1,636
法人所得税費用	△669	△682	△12	△1.8 %	10.4 %	△428
当期利益	1,081	1,920	839	77.6 %	65.7 %	1,207
非支配持分	△2	△3	△0	△22.9 %	△30.8 %	△2
当期利益 (親会社の所有者持分)	1,079	1,918	838	77.7 %	65.8 %	1,205
基本的 EPS (円または米ドル)	68.36	121.75	53.39	78.1 %	66.2 %	0.77

(注) 仕掛研究開発品を含みます。

国際会計基準に準拠した実勢レート (Actual Exchange Rate) ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート (Constant Exchange Rate) ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」をご参照ください。

増減率 (%) は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

## 2025年度第4四半期（1-3月）財務ベース業績（CERベース増減率を含む）



(億円、EPS以外)	2024年度 第4四半期 (1-3月)	2025年度 第4四半期 (1-3月)	AERベース		CERベース	(百万米ドル、 EPS以外) 2025年度 第4四半期(1-3月) 便宜的な米ドル換算
			増減額	増減率	増減率	
売上収益	10,534	10,945	411	3.9 %	△2.2 %	6,880
売上原価	△3,821	△4,057	△236	△6.2 %	0.4 %	△2,550
売上総利益	6,713	6,888	175	2.6 %	△3.2 %	4,330
対売上収益比率	63.7 %	62.9 %		△0.8 pp	△0.7 pp	62.9 %
販売費及び一般管理費	△2,959	△2,920	39	1.3 %	6.0 %	△1,836
研究開発費	△2,160	△1,953	207	9.6 %	11.5 %	△1,228
製品に係る無形資産償却費	△1,365	△1,074	292	21.4 %	24.1 %	△675
製品 <sup>(注)</sup> に係る無形資産減損損失	△665	△475	191	28.7 %	30.5 %	△298
その他の営業収益	104	23	△82	△78.3 %	△76.6 %	14
その他の営業費用	△418	△626	△208	△49.9 %	△41.1 %	△393
営業利益	△749	△136	613	81.8 %	65.6 %	△86
対売上収益比率	△7.1 %	△1.2 %		5.9 pp	4.6 pp	△1.2 %
金融収益	187	158	△29	△15.6 %	△22.9 %	99
金融費用	△503	△543	△40	△7.9 %	△5.7 %	△341
持分法による投資損益	△8	△4	4	54.2 %	50.4 %	△2
税引前四半期利益	△1,073	△525	548	51.1 %	39.5 %	△330
法人所得税費用	42	282	240	571.8 %	612.4 %	177
四半期利益	△1,031	△243	788	76.5 %	66.1 %	△152
非支配持分	△1	△1	△0	△10.7 %	△16.4 %	△0
四半期利益（親会社の所有者持分）	△1,032	△243	788	76.4 %	66.0 %	△153
基本的 EPS（円または米ドル）	△65.25	△15.39	49.85	76.4 %	66.0 %	△0.10

(注) 仕掛研究開発品を含みます。

国際会計基準に準拠した実勢レート（Actual Exchange Rate）ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート（Constant Exchange Rate）ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」をご参照ください。

増減率（%）は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

## 2025年度 Core業績 (CERベース増減率を含む)



(億円、EPS以外)	2024年度	2025年度	AERベース		CERベース	(百万米ドル、EPS以外) 2025年度 便宜的な米ドル換算
			増減額	増減率	増減率	
売上収益	45,798	45,057	△741	△1.6 %	△2.6 %	28,324
売上原価	△15,818	△15,726	92	0.6 %	1.9 %	△9,886
売上総利益	29,980	29,331	△649	△2.2 %	△3.0 %	18,438
対売上収益比率	65.5 %	65.1 %		△0.4 pp	△0.2 pp	65.1 %
販売費及び一般管理費	△11,050	△10,847	204	1.8 %	2.5 %	△6,818
研究開発費	△7,304	△6,760	544	7.4 %	7.0 %	△4,249
営業利益	11,626	11,725	98	0.8 %	△0.9 %	7,370
対売上収益比率	25.4 %	26.0 %		0.6 pp	0.4 pp	26.0 %
金融収益	343	2,111	1,768	515.3 %	515.3 %	1,327
金融費用	△1,750	△3,443	△1,693	△96.7 %	△99.5 %	△2,164
持分法による投資損益	11	△1	△13	—	△82.1 %	△1
税引前当期利益	10,231	10,392	161	1.6 %	△0.9 %	6,532
法人所得税費用	△2,473	△2,248	225	9.1 %	12.8 %	△1,413
当期利益	7,758	8,144	386	5.0 %	2.9 %	5,119
非支配持分	△2	△3	△0	△22.9 %	△30.8 %	△2
当期利益 (親会社の所有者持分)	7,756	8,141	385	5.0 %	2.9 %	5,118
基本的 EPS (円または米ドル)	491	517	26	5.2 %	3.1 %	3.25

国際会計基準に準拠した実勢レート (Actual Exchange Rate) ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート (Constant Exchange Rate) ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」をご参照ください。

増減率 (%) は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

## 2025年度第4四半期（1-3月）Core業績（CERベース増減率を含む）



(億円、EPS以外)	2024年度 第4四半期 (1-3月)	2025年度 第4四半期 (1-3月)	AERベース		CERベース	(百万米ドル、 EPS以外) 2025年度 第4四半期(1-3月) 便宜的な米ドル換算
			増減額	増減率	増減率	
売上収益	10,517	10,945	429	4.1 %	△2.0 %	6,880
売上原価	△3,835	△4,062	△228	△5.9 %	0.6 %	△2,554
売上総利益	6,682	6,883	201	3.0 %	△2.8 %	4,327
対売上収益比率	63.5 %	62.9 %		△0.7 pp	△0.5 pp	62.9 %
販売費及び一般管理費	△2,958	△2,921	37	1.2 %	5.9 %	△1,836
研究開発費	△2,160	△1,953	207	9.6 %	11.5 %	△1,228
営業利益	1,564	2,009	445	28.5 %	15.1 %	1,263
対売上収益比率	14.9 %	18.4 %		3.5 pp	2.6 pp	18.4 %
金融収益	129	158	29	22.9 %	12.3 %	99
金融費用	△474	△500	△26	△5.6 %	△3.2 %	△314
持分法による投資損益	△4	△4	0	9.7 %	2.1 %	△2
税引前四半期利益	1,214	1,663	449	36.9 %	19.5 %	1,045
法人所得税費用	△447	△257	190	42.6 %	50.4 %	△161
四半期利益	768	1,406	639	83.2 %	60.1 %	884
非支配持分	△1	△1	△0	△10.7 %	△16.4 %	△0
四半期利益（親会社の所有者持分）	767	1,406	639	83.2 %	60.2 %	884
基本的 EPS（円または米ドル）	49	89	40	83.4 %	60.3 %	0.56

国際会計基準に準拠した実勢レート（Actual Exchange Rate）ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート（Constant Exchange Rate）ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」をご参照ください。

増減率（%）は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

## 2025年度 財務ベースからCoreへの調整表



(億円、EPSおよび株式数以外)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				Core
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益/費用	その他	
売上収益	45,057					45,057
売上原価	△15,716				△10	△15,726
売上総利益	29,341				△10	29,331
販売費及び一般管理費	△10,842				△5	△10,847
研究開発費	△6,759				△0	△6,760
製品に係る無形資産償却費	△5,043	5,043				—
製品 <sup>(注)</sup> に係る無形資産減損損失	△1,293		1,293			—
その他の営業収益	247			△247		—
その他の営業費用	△1,564			1,564		—
営業利益	4,088	5,043	1,293	1,317	△15	11,725
対売上収益比率	9.1%					26.0%
金融収益及び費用(純額)	△1,464				132	△1,332
持分法による投資損益	△22				20	△1
税引前当期利益	2,602	5,043	1,293	1,317	137	10,392
法人所得税費用	△682	△1,072	△175	△270	△49	△2,248
非支配持分	△3					△3
当期利益(親会社の所有者持分)	1,918	3,971	1,117	1,047	89	8,141
基本的EPS(円)	122					517
株式数(百万)	1,575					1,575

(注) 仕掛研究開発品を含みます。

## 2025年度第4四半期（1-3月）財務ベースからCoreへの調整表



(億円、EPSおよび株式数以外)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				Core
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益/費用	その他	
売上収益	10,945					10,945
売上原価	△4,057				△5	△4,062
売上総利益	6,888				△5	6,883
販売費及び一般管理費	△2,920				△2	△2,921
研究開発費	△1,953				0	△1,953
製品に係る無形資産償却費	△1,074	1,074				—
製品 <sup>(注)</sup> に係る無形資産減損損失	△475		475			—
その他の営業収益	23			△23		—
その他の営業費用	△626			626		—
営業利益	△136	1,074	475	603	△7	2,009
対売上収益比率	△1.2%					18.4%
金融収益及び費用（純額）	△385				43	△342
持分法による投資損益	△4					△4
税引前四半期利益	△525	1,074	475	603	36	1,663
法人所得税費用	282	△273	△114	△142	△11	△257
非支配持分	△1					△1
四半期利益（親会社の所有者持分）	△243	801	361	461	26	1,406
基本的EPS（円）	△15					89
株式数（百万）	1,580					1,580

(注) 仕掛研究開発品を含みます。

## 2024年度 財務ベースからCoreへの調整表



(億円、EPSおよび株式数以外)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	テバ社との合併会社に係る調整影響	その他の営業収益/費用	その他	
売上収益	45,816			△ 17			45,798
売上原価	△15,802					△16	△15,818
売上総利益	30,013			△ 17		△16	29,980
販売費及び一般管理費	△11,048					△3	△11,050
研究開発費	△7,302					△1	△7,304
製品に係る無形資産償却費	△5,482	5,482					—
製品 <sup>(注)</sup> に係る無形資産減損損失	△950		950				—
その他の営業収益	262			△38	△224		—
その他の営業費用	△2,067				2,067		—
営業利益	3,426	5,482	950	△56	1,843	△20	11,626
対売上収益比率	7.5%						25.4%
金融収益及び費用(純額)	△1,635			189		40	△1,407
持分法による投資損益	△40					51	11
税引前当期利益	1,751	5,482	950	133	1,843	71	10,231
法人所得税費用	△669	△1,149	△234	△41	△451	73	△2,473
非支配持分	△2						△2
当期利益(親会社の所有者持分)	1,079	4,333	716	93	1,392	143	7,756
基本的EPS(円)	68						491
株式数(百万)	1,579						1,579

(注) 仕掛研究開発品を含みます。

## 2024年度第4四半期（1-3月）財務ベースからCoreへの調整表



(億円、EPSおよび株式数以外)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	テバ社との合併会社に係る調整影響	その他の営業収益/費用	その他	
売上収益	10,534			△ 17			10,517
売上原価	△3,821					△14	△3,835
売上総利益	6,713			△ 17		△14	6,682
販売費及び一般管理費	△2,959					0	△2,958
研究開発費	△2,160					△0	△2,160
製品に係る無形資産償却費	△1,365	1,365					—
製品 <sup>(注)</sup> に係る無形資産減損損失	△665		665				—
その他の営業収益	104			△38	△66		—
その他の営業費用	△418				418		—
営業利益	△ 749	1,365	665	△ 56	351	△14	1,564
対売上収益比率	△7.1%						14.9%
金融収益及び費用（純額）	△316			△ 5		△25	△345
持分法による投資損益	△8					4	△ 4
税引前四半期利益	△ 1,073	1,365	665	△ 60	351	△34	1,214
法人所得税費用	42	△288	△152	18	△86	19	△447
非支配持分	△1						△1
四半期利益（親会社の所有者持分）	△ 1,032	1,078	513	△ 42	265	△15	767
基本的EPS（円）	△ 65						49
株式数（百万）	1,581						1,581

(注) 仕掛研究開発品を含みます。

## 2025年度 調整後フリー・キャッシュ・フロー



(億円)	2024年度	2025年度	増減額	増減率	(百万米ドル) 2025年度 便宜的な米ドル換算
当期利益	1,081	1,920	839	77.6%	1,207
減価償却費、償却費及び減損損失	8,679	8,668	△11		5,449
運転資本増減 (△は増加)	△1,010	△1,346	△336		△846
法人所得税等の支払額	△1,706	△1,804	△98		△1,134
法人所得税等の還付及び還付加算金の受取額	202	78	△123		49
先物為替予約の決済 (純額)	59	1,297	1,238		815
その他	3,266	1,600	△1,666		1,006
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,572	10,414	△158	△1.5%	6,547
有形固定資産の取得による支出	△2,008	△1,760	248		△1,106
フリー・キャッシュ・フロー (注) 1	8,564	8,654	90	1.1%	5,440
当社が第三者に代わり一時的に保有するキャッシュの調整 (注) 2	21	266	245		167
有形固定資産の売却による収入	1	65	64		41
無形資産の取得による支出 (注) 3	△1,470	△2,349	△879		△1,477
ライセンスを獲得するためのオプションの取得による支出	△318	△37	281		△23
投資の取得による支出 (注) 4	△174	△159	15		△100
投資の売却、償還による収入	294	70	△224		44
関連会社株式の取得による支出	△10	△6	4		△4
関連会社株式の売却による収入	577	9	△568		6
事業売却による収入 (処分した現金及び現金同等物控除後)	206	333	128		209
調整後フリー・キャッシュ・フロー (注) 1	7,690	6,845	△844	△11.0%	4,303

(注) 1 フリー・キャッシュ・フローおよび調整後フリー・キャッシュ・フローの定義については、「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」をご参照ください。

2 当社が第三者に代わり一時的に保有するキャッシュの調整は、当社が即時的または一般的な業務用で使用できない、ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関して当社が第三者に代わり一時的に保有する現金の変動を指します。

3 一部の重要性が低い取引を除き、無形資産の売却による収入は、営業活動によるキャッシュ・フローに含まれております。

4 2024年度において、公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資の取得による支出801億円を控除しております。

## 2025年度 調整後純有利子負債/調整後EBITDA

### 調整後純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2025年度
連結財政状態計算書上の社債及び借入金の簿価	△48,818
現金及び現金同等物	5,951
純有利子負債 (注) 1	△42,868
エクイティクレジットの適用 (注) 2	2,500
為替調整 (注) 3	2,132
当社が第三者に代わり一時的に保有する現金 (注) 4	△792
レベル1 負債性金融商品 (注) 4	851
調整後純有利子負債 (注) 1	△38,176
調整後EBITDA	14,572
調整後純有利子負債/調整後EBITDA倍率	2.6 x
連結財政状態計算書上の社債及び借入金の簿価	△48,818
エクイティクレジットの適用 (注) 2	2,500
為替調整 (注) 3	2,132
調整後有利子負債	△44,187

### 現金及び現金同等物の純増減

(億円)	2024年度	2025年度	増減額	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,572	10,414	△158	△1.5%
有形固定資産の取得による支出	△2,008	△1,760		
有形固定資産の売却による収入	1	65		
無形資産の取得による支出	△1,470	△2,349		
ライセンスを獲得するためのオプションの取得による支出	△318	△37		
投資の取得による支出	△975	△159		
投資の売却、償還による収入	294	70		
関連会社株式の取得による支出	△10	△6		
関連会社株式の売却による収入	577	9		
事業売却による収入 (処分した現金及び現金同等物控除後)	206	333		
純投資ヘッジとして指定された先物為替予約の決済 (純額)	△138	△15		
短期借入金及びコマーシャルペーパーの純増減額	275	△3,418		
長期借入れによる収入	900	600		
長期借入金の返済による支出	△5,872	△851		
社債の発行による収入	9,345	5,261		
社債の償還による支出	△7,338	△1,153		
社債及び借入金に係る金利通貨スワップの決済による収入	469	—		
自己株式の取得による支出	△519	△516		
利息の支払額	△1,130	△1,214		
配当金の支払額	△3,025	△3,119		
その他	△446	△399		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△613	1,755	2,368	△386.2%

(注) 1 純有利子負債および調整後純有利子負債の定義については、「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」をご参照ください。

2 ハイブリッド(劣後)社債及びローンの元本総額5,000億円分について、S&Pグローバル・レーティング・ジャパン(格付機関)より認定された50%のエクイティクレジットを適用し、2,500億円を負債から控除しております。これらの金融負債は、レバレッジ評価において一定のエクイティクレジットが認められております。

3 期中平均レートで換算される調整後EBITDA計算と整合させるため、当四半期期首時点に残存する外貨建て負債を期中平均レートを用いて換算しております。当四半期中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については当該日の対応するスポットレートを用いて換算しております。

4 売上債権の売却プログラムに関係して当社が第三者に代わり一時的に保有する、即時的または一般的な業務用に使えない現金、およびその他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を調整しております。

# 2024年度 調整後純有利子負債/調整後EBITDA



## 調整後純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2024年度
連結財政状態計算書上の社債及び借入金の簿価	△45,153
現金及び現金同等物	3,851
純有利子負債 (注) 1	△41,302
エクイティクレジットの適用 (注) 2	2,500
為替調整 (注) 3	△689
当社が第三者に代わり一時的に保有する現金 (注) 4	△1,058
レベル1 負債性金融商品 (注) 4	793
調整後純有利子負債 (注) 1	△39,755
調整後EBITDA	14,410
調整後純有利子負債/調整後EBITDA倍率	2.8 x
連結財政状態計算書上の社債及び借入金の簿価	△45,153
エクイティクレジットの適用 (注) 2	2,500
為替調整 (注) 3	△689
調整後有利子負債	△43,342

## 現金及び現金同等物の純増減

(億円)	2023年度	2024年度	増減額	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,163	10,572	3,408	47.6%
有形固定資産の取得による支出	△1,754	△2,008		
有形固定資産の売却による収入	86	1		
無形資産の取得による支出	△3,053	△1,470		
ライセンスを獲得するためのオプションの取得による支出	—	△318		
投資の取得による支出	△68	△975		
投資の売却、償還による収入	80	294		
関連会社株式の取得による支出	—	△10		
関連会社株式の売却による収入	—	577		
事業売却による収入 (処分した現金及び現金同等物控除後)	200	206		
純投資ヘッジとして指定された先物為替予約の決済 (純額)	△333	△138		
短期借入金及びコマーシャルペーパーの純増減額	2,770	275		
長期借入れによる収入	1,000	900		
長期借入金の返済による支出	△1,004	△5,872		
社債の発行による収入	—	9,345		
社債の償還による支出	△2,205	△7,338		
社債及び借入金に係る金利通貨スワップの決済による収入	601	469		
自己株式の取得による支出	△23	△519		
利息の支払額	△1,004	△1,130		
配当金の支払額	△2,872	△3,025		
その他	△603	△446		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,019	△613	406	39.9%

- (注) 1 純有利子負債および調整後純有利子負債の定義については、「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」をご参照ください。
- 2 ハイブリッド（劣後）社債及びローンの元本総額5,000億円分について、S&Pグローバル・レーティング・ジャパン（格付機関）より認定された50%のエクイティクレジットを適用し、2,500億円を負債から控除しております。これらの金融負債は、レバレッジ評価において一定のエクイティクレジットが認められております。
- 3 期中平均レートで換算される調整後EBITDA計算と整合させるため、当四半期期首時点に残存する外貨建て負債を期中平均レートを用いて換算しております。当四半期中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については当該日の対応するスポットレートを用いて換算しております。
- 4 ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関して当社が第三者に代わり一時的に保有する、即時的または一般的な業務用に使用できない現金、およびその他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を調整しております。

## 2025年度 当期利益から調整後EBITDAへの調整



(億円)	2024年度	2025年度	増減額	増減率
当期利益	1,081	1,920	839	77.6 %
法人所得税費用	669	682		
減価償却費及び償却費	7,614	7,211		
純支払利息	1,177	1,312		
EBITDA	10,542	11,126	584	5.5 %
減損損失	1,065	1,457		
その他の営業収益及び費用（減価償却費及び償却費、減損損失を除く）	1,632	1,142		
金融収益及び費用（純支払利息を除く）	458	151		
持分法による投資損益	40	22		
その他の調整項目	674	696		
テバ社との合併会社に係る調整影響	△17	—		
その他の費用 <sup>(注) 1</sup>	692	696		
売却した製品に係るEBITDA <sup>(注) 2</sup>	△2	△21		
調整後EBITDA	14,410	14,572	162	1.1 %

(注) 1 株式報酬に係る非資金性の費用を含む非資金性項目、および企業結合会計影響や買収関連費用などの当社グループの中核事業に関連しないその他の項目の調整を含みます。

2 調整後EBITDAの算出にあたり、売却した製品に係るEBITDAを調整しています。

## 2025年度 資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失

(億円)	2024年度	2025年度	増減額	増減率	2026年度 公表予想
資本的支出 (注) 1	3,478	4,109	631	18.1%	3,300 - 3,800
有形固定資産の増加額	2,008	1,760	△248	△12.3%	
無形資産の増加額	1,470	2,349	879	59.8%	
減価償却費及び償却費	7,614	7,211	△403	△5.3%	6,485
有形固定資産の減価償却費 (注) 2 (A)	1,738	1,745	7	0.4%	
無形資産の償却費 (B)	5,876	5,466	△410	△7.0%	
うち、製品に係る無形資産償却費 (C)	5,482	5,043	△439	△8.0%	4,135
うち、製品以外に係る無形資産償却費 (D)	394	424	30	7.5%	
減価償却費及び償却費 (製品に係る無形資産償却費を除く) (A)+(D)	2,132	2,168	36	1.7%	2,350
減損損失	1,065	1,457	392	36.8%	
うち、製品 (注) 3に係る無形資産減損損失	950	1,293	342	36.0%	1,000
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	6,432	6,335	△97	△1.5%	5,135

(注) 1 キャッシュ・フロー・ベース

2 投資不動産に係る減価償却費を含みます。

3 仕掛研究開発品を含みます。

# 2025年度実績 対公表予想（2026年1月）



(億円)	2025年度 公表予想 (2026年1月29日)	2025年度 実績	対公表予想		増減理由
売上収益	45,300	45,057	△243	△0.5%	ENTYVIOや血漿分画製剤はじめとした製品の売上が想定を下回ったことを一部為替によるプラス影響が相殺
売上原価	△15,950	△15,716	234	1.5%	
売上総利益	29,350	29,341	△9	△0.0%	製品構成の変動による売上総利益率の改善
販売費及び一般管理費	△10,980	△10,842	138	1.3%	全社的な効率化プログラムによるコストの追加の節減効果
研究開発費	△6,870	△6,759	111	1.6%	全社的な効率化プログラムによるコストの追加の節減効果
製品に係る無形資産償却費	△5,070	△5,043	27	0.5%	
製品 <sup>(注)1</sup> に係る無形資産減損損失	△1,100	△1,293	△193	△17.5%	主にALUNBRIGの減損損失（319億円）による影響
その他の営業収益	270	247	△23	△8.3%	
その他の営業費用	△1,500	△1,564	△64	△4.3%	トランスフォーメーション・プログラムによる事業構造再編費用の増加（560億円の見込みに対し、708億円の実績）
営業利益	4,100	4,088	△12	△0.3%	
金融収益及び費用（純額）	△1,630	△1,464	166	10.2%	為替のデリバティブ評価益が想定を上回ったため、またリファイナンスのタイミングがずれたことにより、支払利息が想定を下回ったため
税引前当期利益	2,450	2,602	152	6.2%	
当期利益（親会社の所有者持分）	1,540	1,918	378	24.5%	繰延税金資産の回収可能性の評価による税率の改善
基本的EPS（円）	98	122	24	24.5%	
Core売上収益 <sup>(注)2</sup>	45,300	45,057	△243	△0.5%	ENTYVIOや血漿分画製剤はじめとした製品の売上が想定を下回ったことを一部為替によるプラス影響が相殺
Core営業利益 <sup>(注)2</sup>	11,500	11,725	225	2.0%	売上収益は想定を下回ったものの、全社的な効率化プログラムによるコストの節減効果が相殺
Core EPS（円） <sup>(注)2</sup>	486	517	30	6.3%	Core営業利益の増加に加え、繰延税金資産の回収可能性の評価による税率の改善
調整後フリー・キャッシュ・フロー <sup>(注)2</sup>	6,500～7,500	6,845			
資本的支出（キャッシュ・フロー・ベース）	△4,000～△4,500	△4,109			
有形固定資産の減価償却費及び無形資産償却費 （製品に係る無形資産償却費を除く）	△2,200	△2,168	32	1.4%	
調整後EBITDAに対する現金税金の税率 （事業売却を除く） <sup>(注)2</sup>	10%台前半	約12%			
米ドル/円	150	150	△0	△0.2%	
ユーロ/円	174	174	0	0.0%	

(注) 1 仕掛研究開発品を含みます。

2 国際会計基準に準拠しない財務指標の定義は「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」をご参照ください。

## 2026年度業績予想（詳細）



(億円)	2025年度実績	2026年度 公表予想 (2026年5月13日)	増減額	増減率	増減理由
売上収益	45,057	46,400	1,343	3.0%	為替によるプラス影響と新製品の貢献が、独占販売期間が満了した製品の減収影響を相殺
売上原価	△15,716	△16,250	△534	△3.4%	
売上総利益	29,341	30,150	809	2.8%	
販売費及び一般管理費	△10,842	△10,930	△88	△0.8%	新製品の上市コストと為替影響による増加をトランフォーメーション・プログラムによる節減効果がほぼ相殺
研究開発費	△6,759	△7,620	△861	△12.7%	後期開発品に係る費用増加、為替影響による増加をトランフォーメーション・プログラムによる節減効果が一部相殺
製品に係る無形資産償却費	△5,043	△4,135	908	18.0%	VYVANSEの償却が2026年1月に終了
製品 <sup>(注)1</sup> に係る無形資産減損損失	△1,293	△1,000	293	22.6%	
その他の営業収益	247	25	△222	△89.9%	事業売却益の減少
その他の営業費用	△1,564	△2,290	△726	△46.4%	主に事業構造再編費用の増加（2025年度実績：708億円、2026年度予想：1,700億円）
営業利益	4,088	4,200	112	2.7%	
金融収益及び費用（純額）	△1,464	△1,700	△236	△16.1%	主に為替差損益および為替取引に係るデリバティブ評価損益の増減
税引前当期利益	2,602	2,520	△82	△3.1%	
当期利益（親会社の所有者持分）	1,918	1,660	△258	△13.4%	
基本的EPS（円）	122	104	△17	△14.4%	
Core売上収益 <sup>(注)2</sup>	45,057	46,400	1,343	3.0%	為替によるプラス影響と新製品の貢献が、独占販売期間が満了した製品の減収影響を相殺
Core営業利益 <sup>(注)2</sup>	11,725	11,600	△125	△1.1%	売上収益の見通しは増加するものの、営業経費の増加により減少
Core EPS（円） <sup>(注)2</sup>	517	472	△45	△8.7%	
調整後フリー・キャッシュ・フロー <sup>(注)2</sup>	6,845	6,500~7,500			25年度実績と概ね同水準。Core営業利益は前年度並みで、26年度の事業構造再編費用の増加は資本的支出の減少により相殺
資本的支出（キャッシュ・フロー・ベース）	△4,109	△3,300~△3,800			25年度実績にはInnovent Biologics社との戦略的グローバルパートナーシップに基づく契約一時金12億米ドルの支払いを含み、26年度にはProtagonist Therapeutics社の米国のプロフィットシェアからのオプトアウト権行使に伴う同社への支払い最大4億米ドルを含む
有形固定資産の減価償却費及び無形資産償却費 （製品に係る無形資産償却費を除く）	△2,168	△2,350	△182	△8.4%	
調整後EBITDAに対する現金税金の税率（事業売却を除く） <sup>(注)2</sup>	約12%	10%台前半			
米ドル/円	150	156	6	3.9%	
ユーロ/円	174	182	8	4.8%	

(注) 1 仕掛研究開発品を含みます。

2 国際会計基準に準拠しない財務指標の定義は「国際会計基準に準拠しない財務指標、便宜的な米ドル換算の定義および説明」を、調整表は「2026年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表」をご参照ください。

## 2026年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整			Core
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益及び営業費用	
売上収益	46,400				46,400
売上原価	△16,250				
売上総利益	30,150				
販売費及び一般管理費	△10,930				
研究開発費	△7,620				
製品に係る無形資産償却費	△4,135	4,135			—
製品 <sup>(注)</sup> に係る無形資産減損損失	△1,000		1,000		—
その他の営業収益	25			△25	—
その他の営業費用	△2,290			2,290	—
営業利益	4,200	4,135	1,000	2,265	11,600

(注) 仕掛研究開発品を含みます。

## 2026年度前提為替レートおよび通期予想に対する為替感応度



	平均レート (円)			為替円安影響 (2026年4月～2027年3月) (億円)				
	2024年度実績 (4-3月)	2025年度実績 (4-3月)	2026年度通期前提 (4-3月)		売上収益 (国際会計基準)	営業利益 (国際会計基準)	当期利益 (国際会計基準)	Core営業利益 (国際会計基準に非準拠)
米ドル	152	150	156	1%為替円安影響	206.1	4.2	△3.4	37.3
				1円為替円安影響	132.1	2.7	△2.2	23.9
ユーロ	163	174	182	1%為替円安影響	69.2	△28.4	△20.6	△17.7
				1円為替円安影響	38.0	△15.6	△11.3	△9.7
ロシアルーブル	1.6	1.9	2.0		4.5	2.7	1.8	2.9
中国元	21.1	21.1	22.4	1%為替円安影響	19.9	12.2	8.2	12.2
ブラジルリアル	27.4	27.6	29.5		14.2	11.5	7.7	11.6

Takeda Investor Relations: [takeda.ir.contact@takeda.com](mailto:takeda.ir.contact@takeda.com)

**TAK**  
LISTED  
NYSE

**TSE: 4502**



**Better Health, Brighter Future**

© 2026 Takeda Pharmaceutical Company Limited. All rights reserved.